

2017年度 決算説明会

2018年5月11日

三菱ガス化学株式会社

証券コード：4182

目次

1 | 2017年度 決算概要

2 | 2018年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

1 | 2017年度 決算概要

2 | 2018年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

2017年度 業績のポイント

＜2017年度業績概要＞

- ◆ 売上高および各利益段階で過去最高を更新、中期経営計画の利益目標を超過達成
- ◆ 営業利益：高純度イソフタル酸、ポリカーボネート、メタノール誘導品の大幅な市況上昇に加え、販売数量の増加もあり増益
- ◆ 持分法利益：海外メタノール生産会社に係る持分法利益が減少
- ◆ 配当：年21円の増配となる59円（中間24円、期末35円^(*)）

*2018年5月25日の取締役会で正式に決定する予定

2017年度 業績サマリー

● 増収増益を達成し、過去最高益を更新

【単位：億円】

	2016年度 実績	2017年度 実績	増 減		2017年度 前回予想*
			金額	%	
売上高	5,564	6,359	794	14.3%	6,300
営業利益	437	627	189	43.4%	590
(持分法利益)	(211)	(182)	(▲ 28)	-	(210)
経常利益	624	807	182	29.3%	800
税金等調整前当期純利益	610	734	123	20.2%	700
親会社株主に帰属する当期純利益	480	605	125	26.1%	560

一株当たり当期純利益(円/株)※	221.83	281.39
R O E (%)	12.0	13.6
為替レート(J P Y / U S D)	108	111

* 2018年2月6日公表

為替影響：売上高+100億円、営業利益+25億円、経常利益+35億円

※当社は、2016年10月1日付で株式併合（2株→1株）を実施しております。本資料の一株当たり当期純利益および配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しております。

(注) 本ページ以下に記載の数値は、金額表示は単位未満切り捨て、%表示・一株当たり指標・業績前提は単位未満四捨五入で表記しております。

2017年度 営業外損益・特別損益

【単位：億円】

		2016年度	2017年度	増 減
営 業 外 損 益		186	179	▲ 6
	持分法による投資損益	211	182	▲ 28
	金 融 収 支	8	15	6
	為 替 差 損 益	▲ 12	1	14
	そ の 他	▲ 21	▲ 20	0
特 別 利 益		25	28	3
	投資有価証券売却益	7	19	11
	そ の 他	17	9	▲ 8
特 別 損 失		▲ 38	▲ 101	▲ 62
	投資有価証券評価損	-	▲ 82	▲ 82
	債務保証損失引当金繰入額	-	▲ 10	▲ 10
	固 定 資 産 処 分 損	▲ 1	▲ 2	▲ 1
	事 業 撤 退 損	▲ 8	▲ 2	6
	関 係 会 社 整 理 損	▲ 6	▲ 1	5
	そ の 他	▲ 22	▲ 1	21

● 持分法利益

天然ガス系化学品▲34

(METOR社※1の税金費用増加

※2、AR-RAZI社※3のプラントトラブル、ブルネイ メタノール社の定期修繕等により、減少)

※1：ベネズエラの持分法適用会社

※2：ベネズエラの為替制度変更により、税金費用が増加

※3：サウジアラビアの持分法適用会社

機能化学品+10 等

● 投資有価証券売却益

16年度/17年度ともに政策保有株式の売却により発生

● 投資有価証券評価損、 債務保証損失引当金繰入額

カナダ シェールガス・LNGプロジェクトに関する損失を計上

(注) 本表の増減は対損益増減を示しております。

2017年度末 貸借対照表

● 収益力の向上により、財務基盤が強化

【単位：億円】

科 目	2017年 3月末	2018年 3月末	増 減
流 動 資 産	3,266	3,910	643
現 預 金	750	1,010	260
売 掛 債 権	1,384	1,656	271
棚 卸 資 産	946	1,037	91
そ の 他	186	205	19
固 定 資 産	4,115	4,014	▲ 100
有 形 固 定 資 産	2,180	2,207	26
無 形 固 定 資 産	83	84	0
投 資 そ の 他 の 資 産	1,850	1,723	▲ 127
資 産 合 計	7,381	7,924	543

科 目	2017年 3月末	2018年 3月末	増 減
負 債	2,648	2,733	85
買 掛 債 務	685	887	202
有 利 子 負 債	1,187	1,069	▲ 117
そ の 他	775	776	0
純 資 産	4,733	5,191	457
株 主 資 本	4,129	4,556	426
その他包括利益累計額	117	117	0
非 支 配 株 主 持 分	486	517	31
負 債 ・ 純 資 産 合 計	7,381	7,924	543
自 己 資 本 比 率	57.5%	59.0%	
一株当たり純資産(円/株)	1,968	2,188	

2017年度 キャッシュフロー計算書

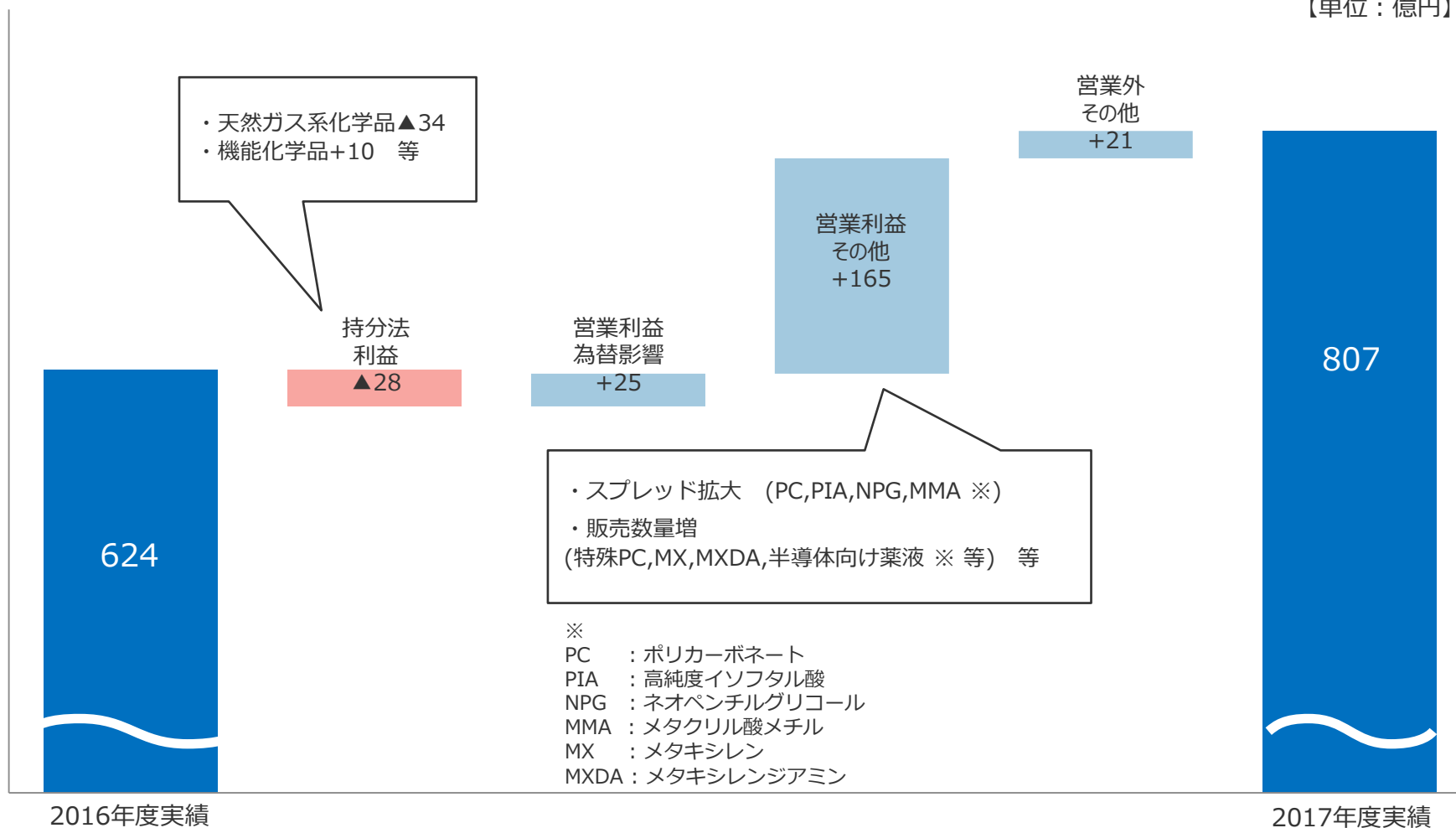
● 収益力の向上により、CFは高水準で推移

【単位：億円】

	2016年度	2017年度	増 減
営 業 キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー	827	907	80
税金等調整前当期純利益	610	734	123
減価償却費	256	270	13
持分法利益	▲ 211	▲ 182	28
持分法適用会社からの配当金受取額	122	200	77
運転資金等	100	▲ 56	▲ 156
法人税等支払額	▲ 52	▲ 58	▲ 6
投 資 キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー	▲ 311	▲ 336	▲ 24
設備資金	▲ 314	▲ 344	▲ 29
投融資資金等	2	7	4
フ リ ー キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー (差 引)	515	571	55
財 務 キ ャ ッ シ ュ フ ロ ー	▲ 602	▲ 330	271
借入金・社債増減等	▲ 469	▲ 161	308
自己株式取得	▲ 62	▲ 70	▲ 7
配当金支払額	▲ 69	▲ 99	▲ 29
現金及び現金同等物に係る換算差額	▲ 0	▲ 9	▲ 8
現金及び現金同等物の増減額（合計）	▲ 86	231	317
現金及び現金同等物の期末残高	671	903	231

2017年度 経常利益 増減要因

【単位：億円】



1 | 2017年度 決算概要

2 | 2018年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

2018年度業績見通しのポイント

<2018年度業績見通し概要>

- ◆ 増収も、営業利益および経常利益は減益を予想
- ◆ 営業利益：市況の下落、エレクトロニクスケミカル事業の競合激化、修繕費や研究開発費等の固定費増加等で減益
- ◆ 持分法利益：海外メタノール生産会社に係る持分法利益が増加
- ◆ 当期利益：特別損益の改善等により、17年度並み
- ◆ 配当：年11円の増配となる70円を予想

2018年度 業績予想サマリー

- 増収も営業利益、経常利益は減益を予想。当期利益は前年並み。

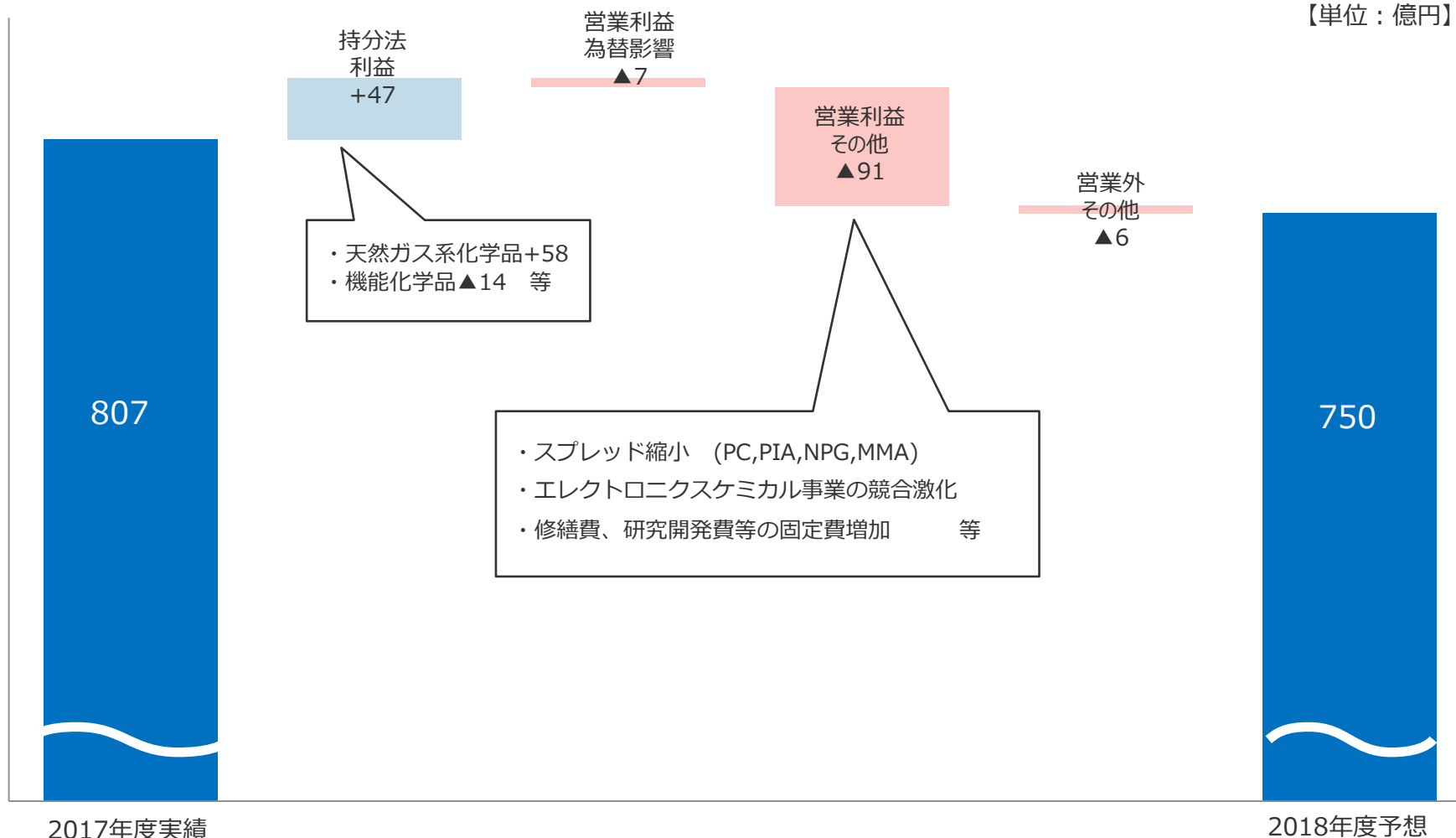
【単位：億円】

	2017年度 実績	2018年度 予想	増 減	
			金額	%
売上高	6,359	6,400	40	0.6%
営業利益	627	530	▲ 97	▲15.5%
(持 分 法 利 益)	(182)	(230)	(47)	-
経 常 利 益	807	750	▲ 57	▲7.1%
税 金 等 調 整 前 当 期 純 利 益	734	790	55	7.6%
親 会 社 株 主 に 帰 属 す る 当 期 純 利 益	605	610	4	0.8%

一株当たり当期純利益(円/株)	281.39	285.57
R O E (%)	13.6	12.5
為 替 レ ー ト (J P Y / U S D)	111	110

2018年度経常利益予想 増減要因

【単位：億円】



設備投資・株主還元の状況

設備投資（固定資産計上ベース）

【単位：億円】

	2016年度	2017年度	2018年度予想
天然ガス系化学品	90	60	65
芳香族化学品	105	113	165
機能化学品	81	110	145
特殊機能材	66	19	40
その他	5	6	35
計	350	309	450

株主還元

● 2017年度

中間配当（実績）：24円/株

期末配当（予想）：35円/株

年間配当（予想）：59円/株（前期比 21円/株の増配）

自己株式取得（2017年11月～2018年1月、約70億円）

自己株式消却（2017年11月、10百万株、発行済株式総数に対する割合：4.14%）

総還元性向：32.5%

● 2018年度（予想）

中間配当：35円/株

期末配当：35円/株

年間配当：70円/株（前期比 11円/株の増配）

1 | 2017年度 決算概要

2 | 2018年度 業績予想

3 | セグメント別 業績概要

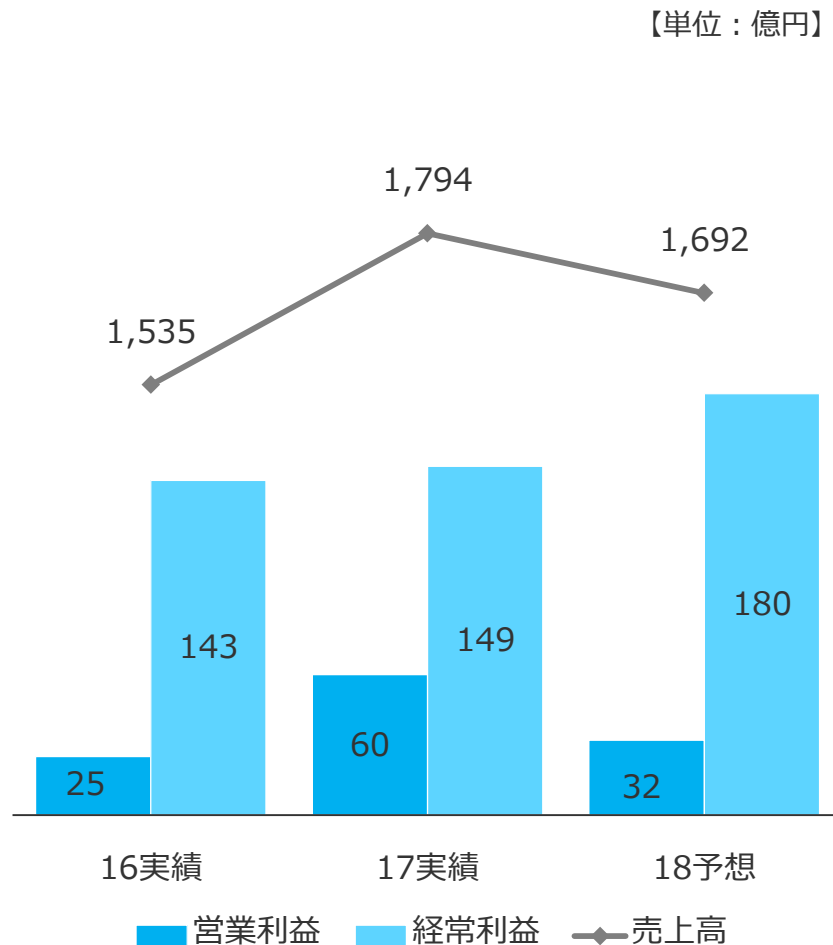
セグメント別 連結 売上高・営業利益・経常利益推移

【単位：億円】

	16実績			17実績			18予想		
	上期	下期	通期	上期	下期	通期	上期	下期	通期
売上高	2,679	2,885	5,564	3,029	3,329	6,359	3,200	3,200	6,400
天然ガス系化学品	701	834	1,535	814	980	1,794	865	827	1,692
芳香族化学品	955	989	1,944	1,062	1,092	2,154	1,075	1,077	2,152
機能化学品	835	886	1,722	979	1,071	2,051	1,055	1,078	2,133
特殊機能材	248	253	502	252	275	527	253	265	519
全社/調整	▲ 61	▲ 78	▲ 139	▲ 79	▲ 90	▲ 169	▲ 50	▲ 47	▲ 97
営業利益	192	244	437	302	324	627	270	260	530
天然ガス系化学品	3	21	25	22	38	60	13	19	32
芳香族化学品	90	92	183	142	119	262	124	98	222
機能化学品	96	120	216	138	164	302	118	132	250
特殊機能材	20	27	48	24	25	50	26	24	51
全社/調整	▲ 19	▲ 16	▲ 36	▲ 24	▲ 24	▲ 49	▲ 12	▲ 14	▲ 27
経常利益	246	377	624	420	387	807	380	370	750
天然ガス系化学品	39	103	143	86	62	149	88	92	180
芳香族化学品	85	89	175	138	112	251	118	94	212
機能化学品	114	153	268	176	210	386	144	161	306
特殊機能材	27	34	61	33	29	63	31	31	63
全社/調整	▲ 19	▲ 4	▲ 24	▲ 15	▲ 28	▲ 43	▲ 2	▲ 9	▲ 12

天然ガス系化学品

【単位：億円】



●2017年度 実績

- ◆メタノール：市況上昇（16年度実績：278ドル/MT→17年度実績：340ドル/MT）
- ◆ネオペンチルグリコール(NPG)、MMA系製品：市況上昇
- ◆持分法利益：メタノール市況が上昇したものの、METOR社※1の税金費用増加※2、AR-RAZI社※3のプラントトラブル、ブルネイメタノール社の定期修繕等により、減少

※1：ベネズエラの持分法適用会社

※2：ベネズエラの為替制度変更により、税金費用が増加

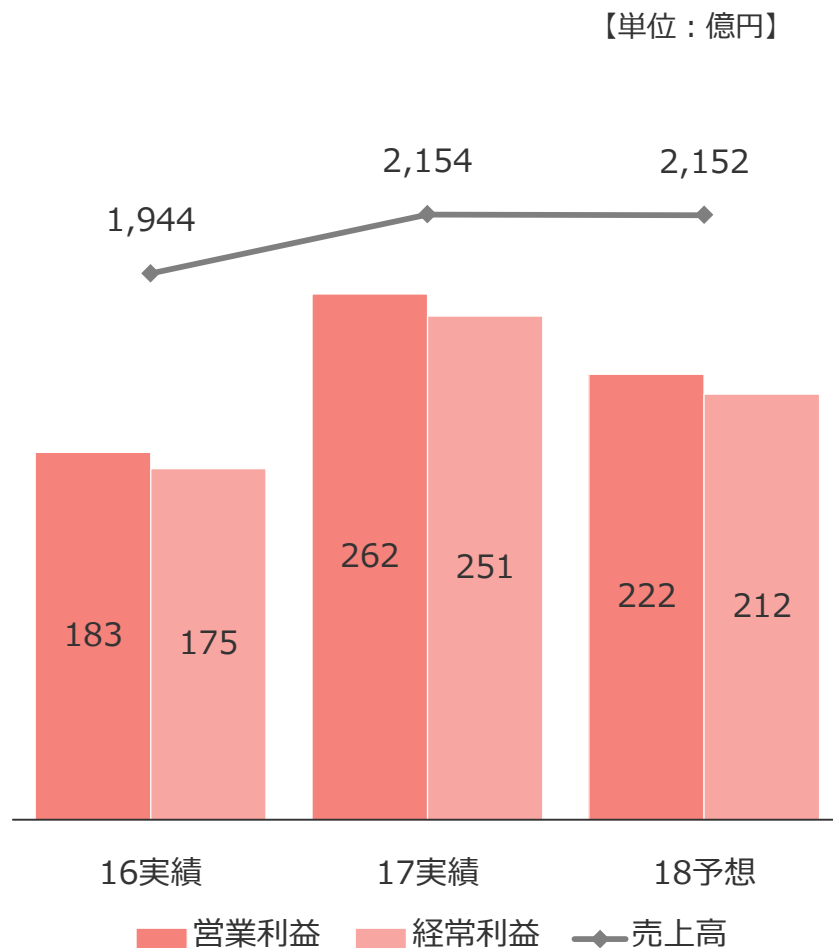
※3：サウジアラビアの持分法適用会社

●2018年度 予想

- ◆メタノール：前年並みの市況を見込む（17年度実績：340ドル/MT→18年度予想：335ドル/MT）
- ◆NPG、MMA系製品：市況下落
- ◆修繕費等の固定費増加もあり、営業利益は減益を予想
- ◆持分法利益：上記2017年度の減益要因の解消などにより、増益を予想

芳香族化学品

【単位：億円】



● 2017年度 実績

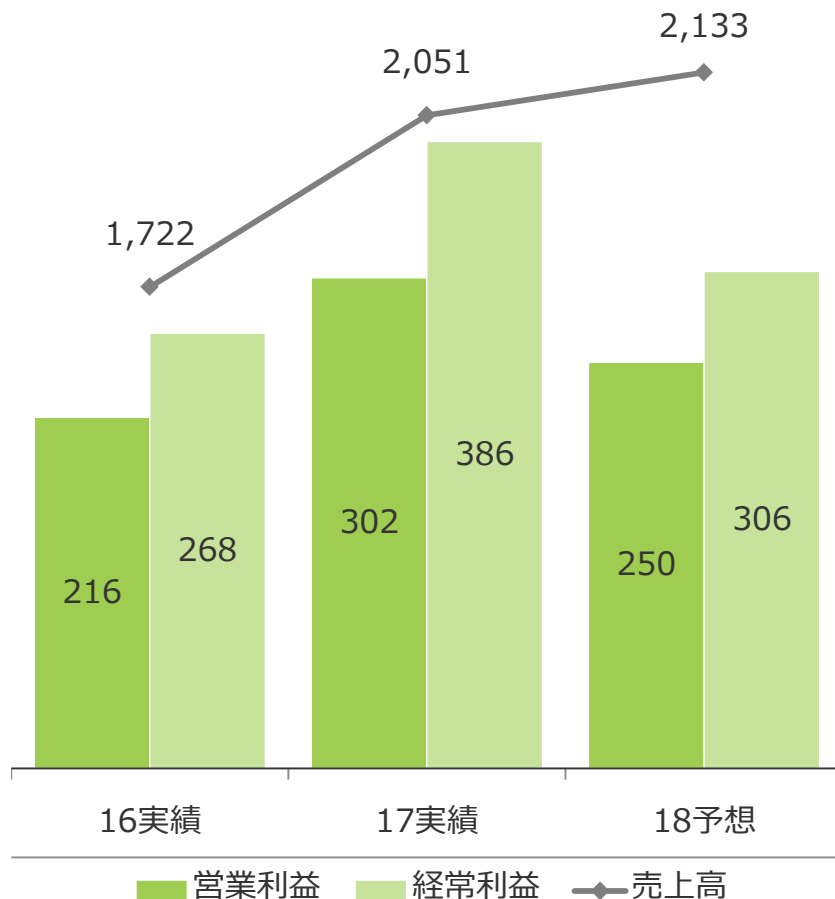
- ◆ 高純度イソフタル酸(PIA)：市況が大幅に上昇
- ◆ メタキシレン：休止していた生産装置1系列を2017年3月末に再稼働、販売数量が増加
- ◆ メタキシレンジアミン(MXDA)：販売数量増加、販売価格上昇
- ◆ 発泡プラスチック(JSP)：自動車向けの発泡ポリプロピレン(EPP)の販売数量が増加したものの、原燃料価格の上昇等で損益は前期をやや下回る

● 2018年度 予想

- ◆ MXDA等の特殊芳香族は引き続き堅調な販売を見込む
- ◆ PIAのスプレッドは、17年度に比べ縮小を予想。水島工場が大型定修年に当たり固定費が増加することもあり、減益の見通し
- ◆ JSP：EPPの販売数量は、引き続き増加を見込む

機能化学品

【単位：億円】



● 2017年度 実績

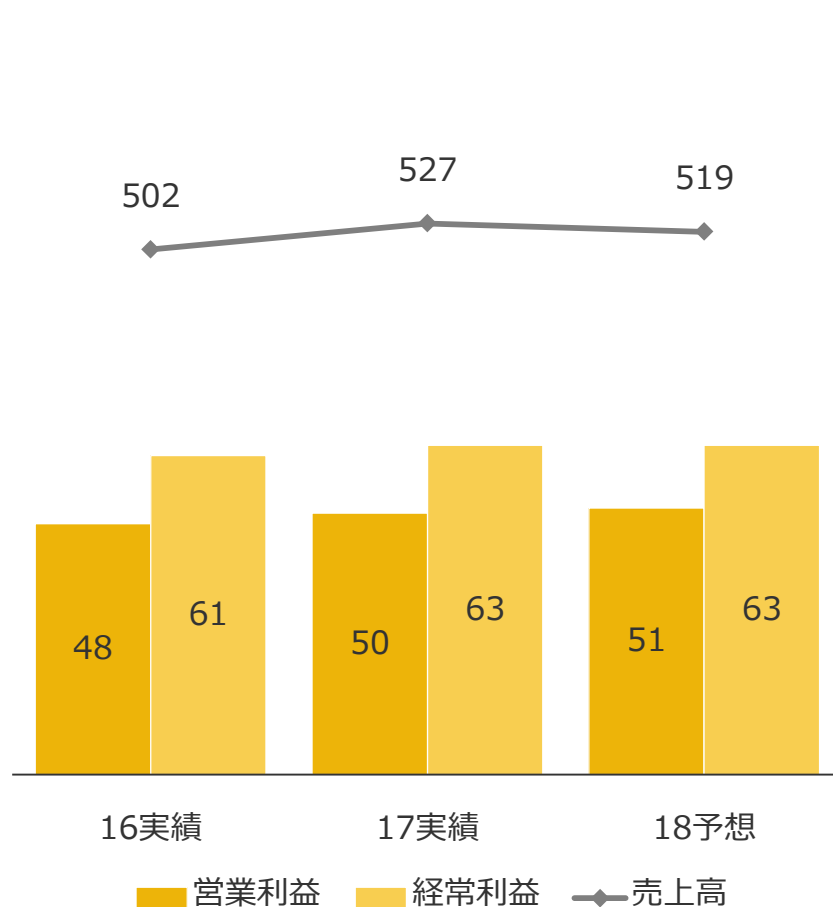
- ◆ 無機化学品：半導体市場の拡大に伴い、半導体向け薬液の販売数量が増加
- ◆ ポリカーボネート(PC)：中国を中心に需要が好調。PC-ビスフェノールA (BPA)のスプレッドは、非常に高い水準で推移
- ◆ スマホレンズ向け特殊PCの販売数量が増加
- ◆ PCシートフィルム：ゲーム機や車載向けなどが好調

● 2018年度 予想

- ◆ 無機化学品：エレクトロニクスケミカル事業の競合環境激化、米国の新工場立上げに伴う固定費等の増加などにより、減益を予想
- ◆ PC-BPAスプレッドは、17年度に比べ縮小を予想
- ◆ スマホのデュアルレンズ化の拡大等を背景に、引き続き特殊PCの販売数量増加を見込む

特殊機能材

【単位：億円】



● 2017年度 実績

- ◆ 電子材料：主力の半導体パッケージ向けBT材料は、引き続きメモリー分野が好調で増収増益
- ◆ 脱酸素剤：海外での採用拡大等により増収となったものの、新工場の生産開始により固定費負担が増加し、減益

● 2018年度 予想

- ◆ 電子材料：BT材料の販売数量は17年度並みを見込む。引き続き、5G通信規格などの大容量通信や高速データ処理といった材料の高度化、多様化に対応した開発を推進
- ◆ 脱酸素剤：医薬向けを含めた海外展開の強化、新工場の稼働率向上の取り組みを推進

Appendix

参考： 各種指標（1）

【単位：億円】

年度	2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018(予)
設備投資額 (上期)	276 (141)	354 (146)	424 (224)	309 (177)	254 (138)	222 (103)	305 (149)	350 (137)	309 (139)	450 (220)
減価償却費 (上期)	295 (137)	290 (138)	277 (134)	230 (107)	235 (114)	237 (115)	267 (131)	256 (122)	270 (131)	270 (130)
研究開発費 (上期)	162 (74)	164 (74)	174 (88)	151 (72)	161 (80)	168 (80)	189 (92)	192 (92)	189 (95)	220 (110)
年度末人員(人)	4,920	4,979	5,216	5,323	5,445	8,254	8,176	8,034	8,009	8,239
一株当たり当期純利益(円/株)*	26	84	55	▲35	66	192	154	222	281	286
総資産経常利益率 (%)	1.4	6.5	4.5	4.6	4.8	5.8	5.9	8.4	10.5	9.3
自己資本当期利益率 (%)	2.2	6.9	4.4	▲2.8	5.0	12.6	9.0	12.0	13.6	12.5
配当金(円/株)* (うち2Q末)	16.0 (8.0)	16.0 (8.0)	24.0 (12.0)	24.0 (12.0)	24.0 (12.0)	28.0 (14.0)	32.0 (16.0)	38.0 (16.0)	59.0 (24.0)	70.0 (35.0)

*当社は2016年10月1日に株式併合（2株→1株）を実施しております。一株当たり当期純利益および配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しております。

参考： 各種指標（2） セグメント別 設備投資額・減価償却費（連結）

【単位：億円】

年度		2009	2010	2011	2012	2013	2014	2015	2016	2017	2018 (予)
設備投資額(※)	天然ガス系化学品	71	140	139	63	45	57	53	90	60	65
	芳香族化学品	77	45	47	57	23	40	106	105	113	165
	機能化学品	81	148	216	150	112	76	99	81	110	145
	特殊機能材	45	18	18	33	66	43	38	66	19	40
	その他	1	3	1	3	5	3	7	5	6	35
	合計	276	354	424	309	254	222	305	350	309	450
減価償却費	天然ガス系化学品	75	86	77	62	63	69	61	50	51	55
	芳香族化学品	79	78	77	58	41	39	82	85	85	85
	機能化学品	86	80	84	77	95	92	88	86	91	90
	特殊機能材	51	42	35	27	31	33	30	30	35	35
	その他	4	4	3	3	3	3	3	3	5	5
	合計	295	290	277	230	235	237	267	256	270	270

※固定資産計上ベース

参考： 各種指標（3）

	2014年度		2015年度		2016年度		2017年度		2018年度 (予想)
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	
為替(JPY/USD)	103	117	122	118	105	112	111	111	110
為替(JPY/EUR)	139	139	135	130	118	119	126	133	130
原油価格(Dubai) (US\$/BBL)	104	63	56	36	43	51	50	62	60
メタノール (US\$/MT) アジアスポット平均価格	432	358	301	230	230	327	296	381	335
原料キシレン (US\$/MT)	1,100	730	740	630	660	680	650	725	705
ビスフェノールA (US\$/MT) *	1,600 ~2,000	1,200 ~1,900	950 ~1,500	850 ~1,100	1,000 ~1,200	1,000 ~1,400	1,100 ~1,300	1,200 ~1,700	1,200 ~1,800
ポリカーボネート (US\$/MT) *	2,500 ~2,700	2,300 ~2,700	2,100 ~2,650	2,000 ~2,400	2,200 ~2,500	2,400 ~2,800	2,500 ~2,900	2,900 ~3,900	2,700 ~3,900

*期間中の最小値および最大値を記載

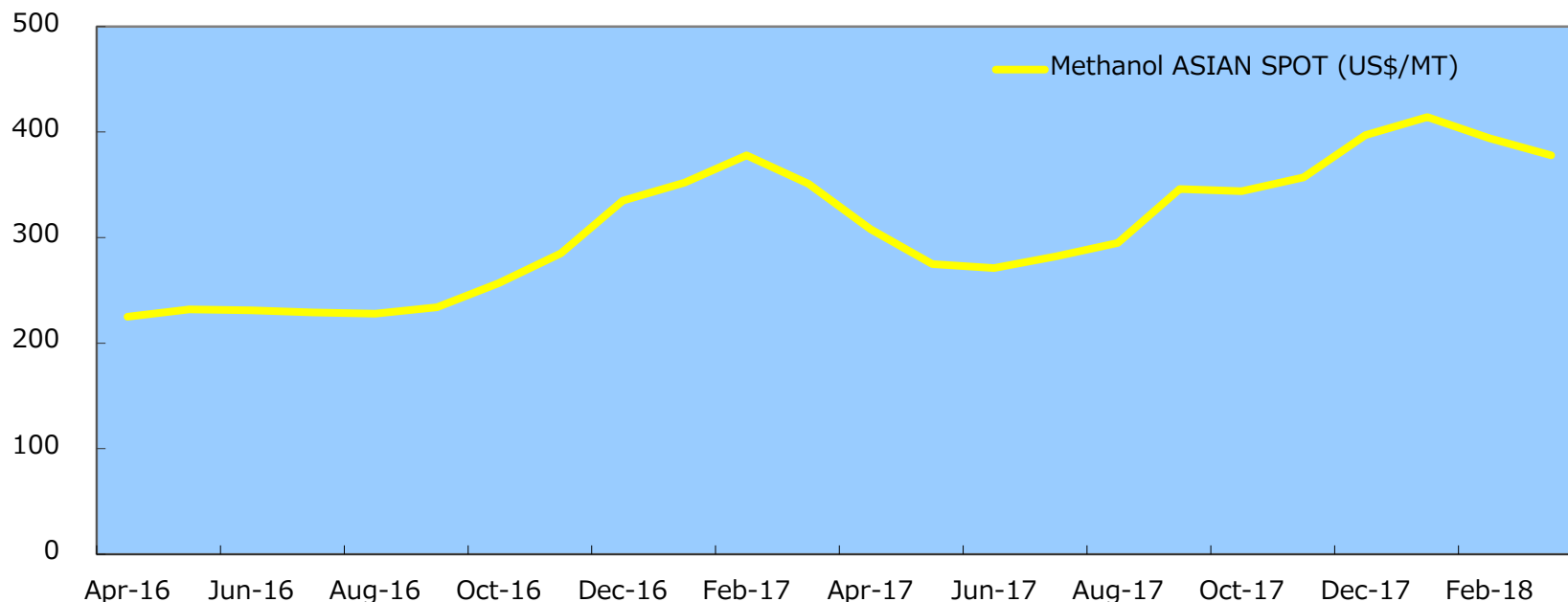
感応度（概算）

- 為替（USD）：1円の円高(円安)で、営業利益9億円/年、経常利益11億円/年の減益（増益）
 為替（EUR）：1円の円高(円安)で、営業利益0.7億円/年、経常利益0.7億円/年の減益（増益）
 原油(Dubai)：1\$/BBLの上昇（下落）で、3億円/年の減益（増益）
 メタノール：メタノール市況1\$/MTの上昇（下落）で、持分法利益1億円/年の増益（減益）

※メタノールについては、2014年度は、上期：1-6月、下期：7-12月の価格を表記しております。
 2015年度以降は、上期：4-9月、下期は：10-3月の価格を表記しております。

参考：メタノール市況の推移

(US\$/MT)



2017年度 実績：340 US\$ /MT

需要：7月以降、中国MTO(Methanol To Olefin)の稼働が上昇し、需要が増加

供給：新規大型プラントの稼働はみられず。中国における冬場の天然ガス規制の影響により、2017年後半から天然ガスを原料にするプラントの供給量が減少

2018年度 予想：335 US\$ /MT

需要：引き続き、中国MTO用途を中心に増加する見通し

供給：新規プラント（5月：北米、下期：イラン）の稼働により増加する見通し

お問い合わせ先

三菱ガス化学株式会社

広報 I R 部

T E L 0 3 - 3 2 8 3 - 5 0 4 1

www.mgc.co.jp

< 見通しに関する注意事項 >

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

社会と分かち合える価値の創造

 三菱ガス化学株式会社

mitsubishi gas chemical company, inc.

新中期経営計画について

2018年5月11日

三菱ガス化学株式会社

証券コード：4182

＜ 見通しに関する注意事項 ＞

当資料に記載されている計画、目標等の将来に関する記述は、作成時点において当社が入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいて判断したものであり、不確実性を内包するものです。実際の業績等は、様々な要因によりこうした将来に関する記述とは大きく異なる可能性があります。

目次

1 | 前中期経営計画 MGC Advance2017 総括

2 | 新中期経営計画 MGC Advance2020 概要

3 | セグメント別事業計画

目次

1 | 前中期経営計画 MGC Advance2017 総括

2 | 新中期経営計画 MGC Advance2020 概要

3 | セグメント別事業計画

前中期経営計画 MGC Advance2017 概要：基本方針・数値目標

【基本方針】

中核事業を中心とした既存事業の収益力強化

中核事業に対し重点的に経営資源を投じ、収益力の更なる強化を図る。

不採算事業の再構築

不採算事業については、出口戦略を模索する。

新規事業の創出と育成

既存事業の周辺領域に加え、将来の市場ニーズに合致する新規事業領域で事業を創出する。

グループ全体の経営効率改善

グループ経営の実践により、企業価値の最大化を追求する。

持続的成長を支える〈質〉の向上

MGCグループの競争力強化を継続的に支えるための〈質〉の更なる向上を図る。

【数値目標】

2017年度連結業績目標

売上高：7,000億円 営業利益：400億円 経常利益：550億円 ROE：9%以上

前中期経営計画 MGC Advance2017 総括：定性的評価（基本方針）

不採算事業の再構築に一定の目途。全セグメントでバランス良く収益を稼ぐ体質へ。

中核事業を中心とした既存事業の収益力強化

営業利益、経常利益、ROEに於いて、2017年度収益目標を達成。

不採算事業の再構築

リーマンショック以降、数年に亘った不採算事業の再構築に一定の目途。

新規事業の創出と育成

新規事業の創出と育成にはある程度の時間を要するものの、積極的な取り組みを継続。

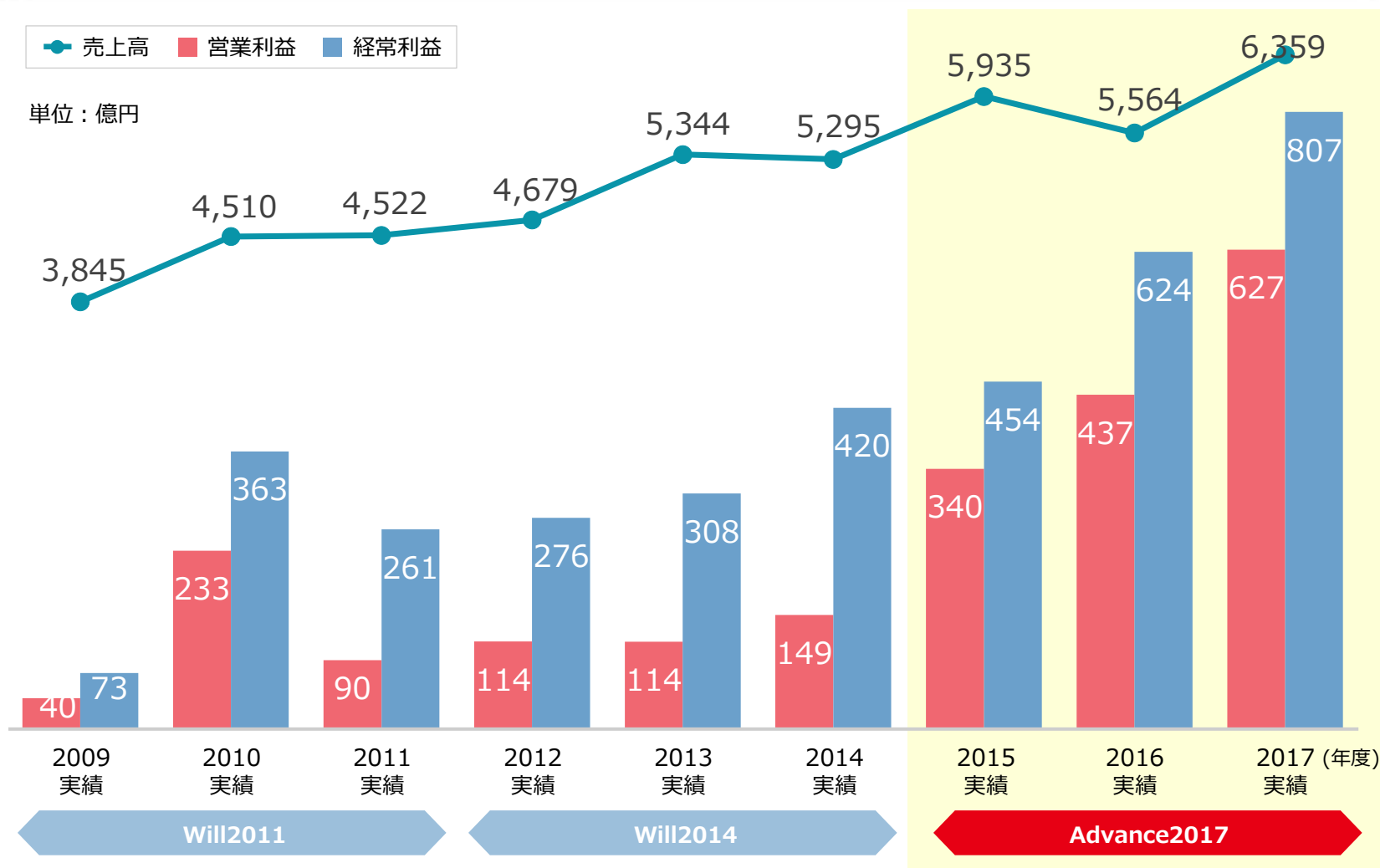
グループ全体の経営効率改善

連結経営を深化させる事業分析手法を新たに導入。グループ一体経営を強化する。

持続的成長を支える〈質〉の向上

安全・安定運転の継続向上に向け、保安力・現場力を強化推進。

前中期経営計画 MGC Advance2017 総括：9年間の業績推移



前中期経営計画 MGC Advance2017 総括：実績と当初計画

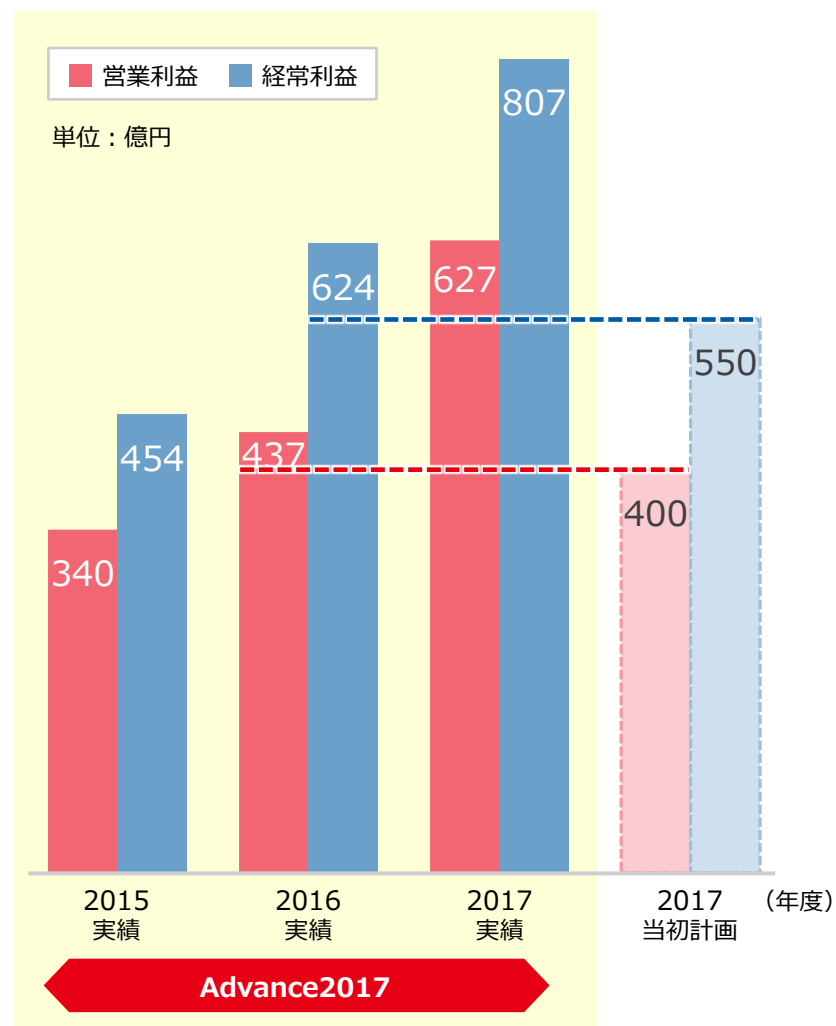
営業利益・経常利益ともに
最終年度計画を**1年前倒しで達成**。

売上高は最終年度計画に未達ながら
増収増益を維持。
ROEも初年度より大きく向上。

単位：億円，%

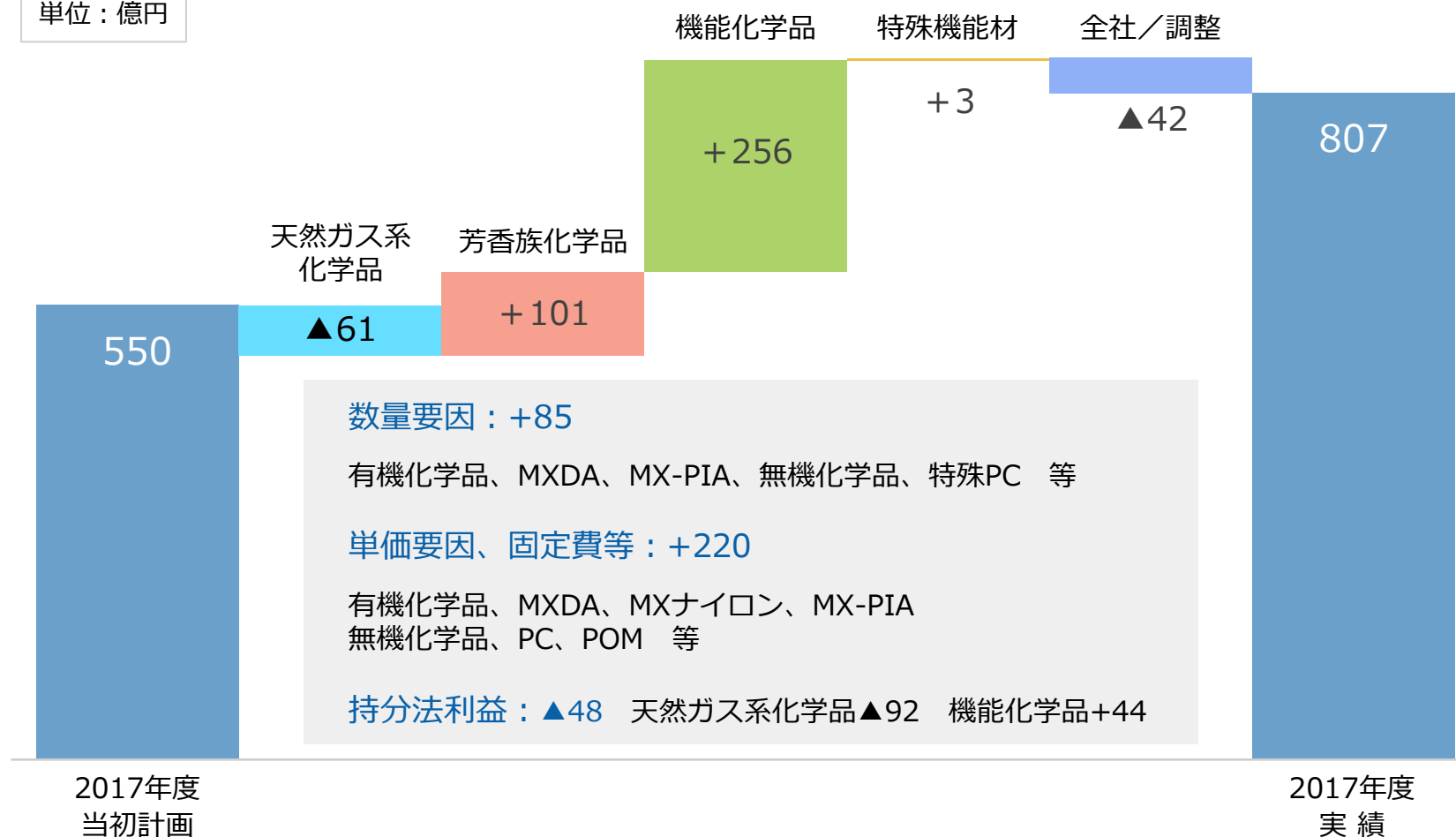
連結指標	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績	2017年度 計画
売上高	5,935	5,564	6,359	7,000
営業利益	340	437	627	400
経常利益	454	624	807	550
ROE	9.0%	12.0%	13.6%	9%以上

前提	2017年 実績	2017年 計画
為替(円/US\$)	111	115
原油 (Dubai) (US\$/bbl)	56	65



前中期経営計画 MGC Advance2017 総括：セグメント別経常利益差異

単位：億円



前中期経営計画 MGC Advance2017 総括：主要投融資案件（総投融資額：1,200億円）

- ・特殊PC生産能力増強（2016年）
- ・メタクリル酸グリシジル生産能力増強（2017年）
- ・QOLイノベーションセンター白河設立（2017年）
- ・抗体医薬品製造会社設立（2018年）
- ・相馬港天然ガス火力発電事業参画（2020年）

超純過酸化水素
R&Dセンター新設（2017年）

● 日本

● 台湾

● インドネシア

アンモニア製造事業参画
（2017年）

カナダシェールガス・LNGプロジェクト参画

● カナダ

● オレゴン州

● テキサス州

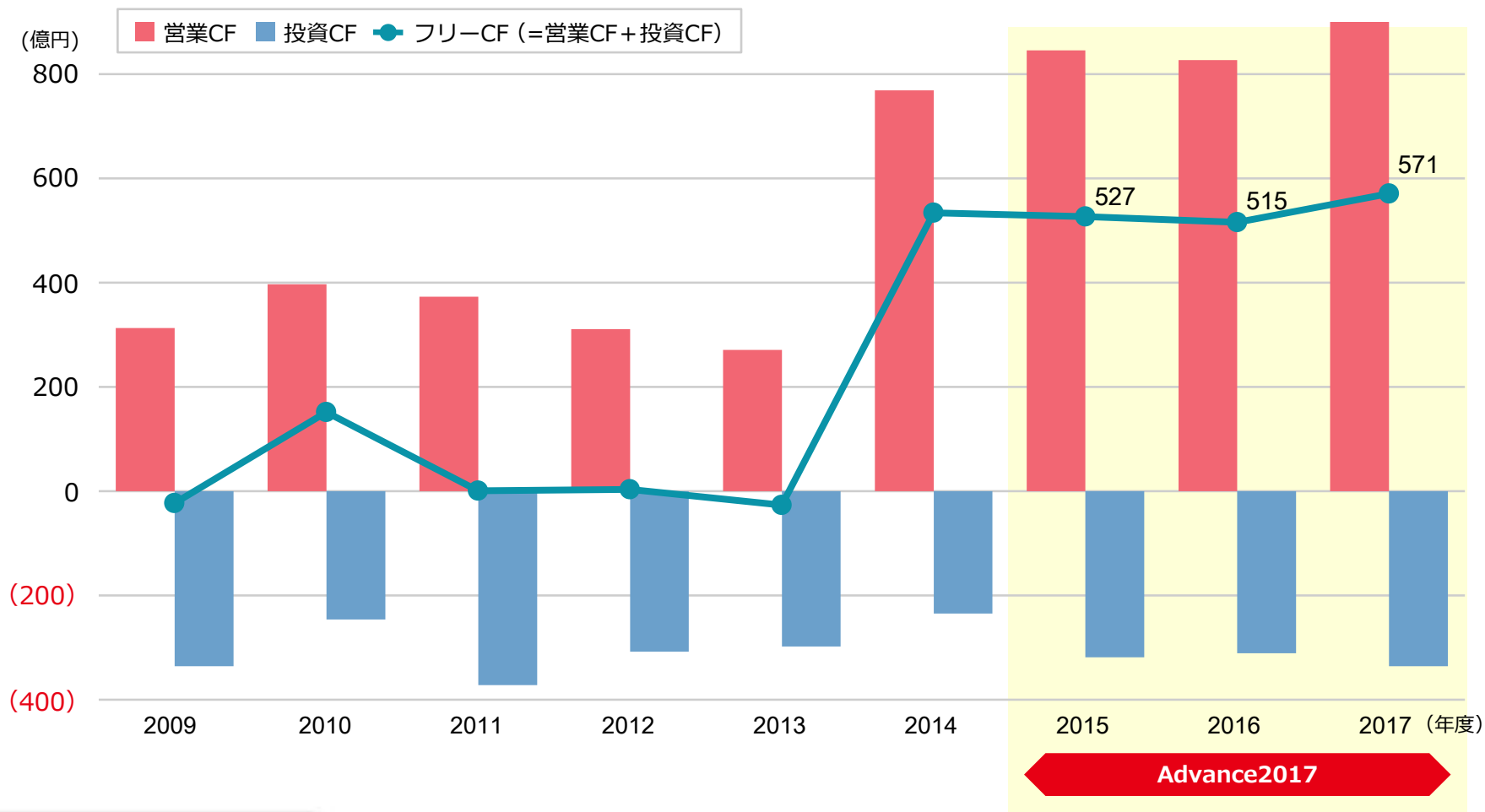
超純過酸化水素
製造工場新設（2019年）

● トリニダード・トバゴ

メタノール・DMEプロジェクト参画
（2019年）

前中期経営計画 MGC Advance2017 総括：キャッシュ・フローの推移

収益力向上により、フリーCFはAdvance2017期間累計で1,614億円



目次

1 | 前中期経営計画 MGC Advance2017 総括

2 | 新中期経営計画 MGC Advance2020 概要

3 | セグメント別事業計画

新中期経営計画 MGC Advance2020 概要：事業環境認識

メガトレンド／重要な社会課題

自然環境の変化

- 地球温暖化
- 生物多様性の危機

社会環境の変化

- 環境負荷低減
- 変化する国際情勢
- 人口動態の変化
少子高齢化社会
新興国の経済成長
- ダイバーシティの推進
- 技術革新
- IoT、AI、ビッグデータの活用
- ESGに関する意識の高まり

事業の抱える機会とリスク

【機会】

- 環境負荷低減
- 需要の多様化
- QOLの向上
- 高速化・大容量化に対応する
情報・通信インフラ構築
- 自動車産業の変革

【リスク】

- 気候変動リスクの拡大
- 変化する国際情勢
- 不透明なエネルギー市況と
予見困難な為替動向
- 国内労働人口・総需要の減少
- 技術革新の取込の遅延

新中期経営計画 MGC Advance2020 概要：存在理念・グループビジョン

存在理念

「MGCは、化学にもとづく幅広い価値の創造を通じて、
社会の発展と調和に貢献します」

MGCグループビジョン「社会と分かち合える価値の創造」

MGCグループは、化学の力にもとづき、グループ一人ひとりが
力を合わせて社会から必要とされる価値ある製品・技術を創出し、
直面する社会課題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

新中期経営計画 MGC Advance2020 概要：基本方針・施策・数値目標

【基本方針】

- ｜ MGCグループの企業価値の向上
- ｜ MGCグループを取り巻くステークホルダーからの信頼の醸成

【施策】 基本方針を実現するための5つの施策

- ｜ 中核事業を中心とした既存事業の収益力強化
- ｜ 新規事業の創出と育成
- ｜ 最適な事業ポートフォリオに向けた投資戦略の実行
- ｜ MGCグループ一体となった経営の推進
- ｜ 持続的成長を支える〈質〉の向上

【数値目標】

2020年度連結業績目標

売上高：7,500億円 営業利益：650億円 経常利益：900億円 ROE：12%以上

新中期経営計画 MGC Advance2020 概要：基本方針

「MGCグループの企業価値の向上」

MGCグループは共に経営戦略を実践し、安全性・効率性・生産性・収益性を絶えず追求することにより事業を拡大成長させ、更に新しい事業を創出することによって企業価値の向上を図っていきます。

「MGCグループを取り巻くステークホルダーからの信頼の醸成」

MGCグループは当社を取り巻く多様なステークホルダーからの信頼の醸成に努め、企業としての社会的な責任を果たしながら、持続的に成長していきます。

新中期経営計画 MGC Advance2020 概要：基本方針を実現するための5つの施策①

「中核事業を中心とした既存事業の収益力強化」

当社の強みに基づく既存中核事業に重点的に経営資源を投じ、既存事業の収益力を強化します。

- 既存事業の収益力強化のため、技術の改良を進め、競争優位性の維持、効率的な市場展開を図ります。
- 既存製品については、新たな用途開発、市場開発に取り組むとともに、異なる事業領域へ展開を図ります。
- 生産については安全安定運転により、収益力・事業基盤の強化を図ります。
- 市況変動型汎用製品と競合型機能製品のバランスを取りながら、新規競合型機能製品を絶えず投入することにより、安定した収益構造の構築を目指します。
- 事業基盤強化：トリニダード・トバゴプロジェクト、北米超純過酸化水素工場の円滑な立上
特殊PC能力増強(2019年)、MXDA国内工場増強・新工場計画(2022年)
- 競合型機能製品の拡大：有機化学品、MXDA、MXナイロン、芳香族アルデヒド、電子工業用薬品
高機能性PC、特殊PC、BT積層板、脱酸素剤

【施策】

技術改良、用途開発、市場開発
新規の競合型機能製品開発など
生産の安全安定運転の実行
事業環境の検証、事業戦略の見直し

重点的に
経営資源
投入

【既存中核事業】

天然ガス系
化学品

芳香族
化学品

機能
化学品

特殊
機能材

【事業基盤・収益力強化】

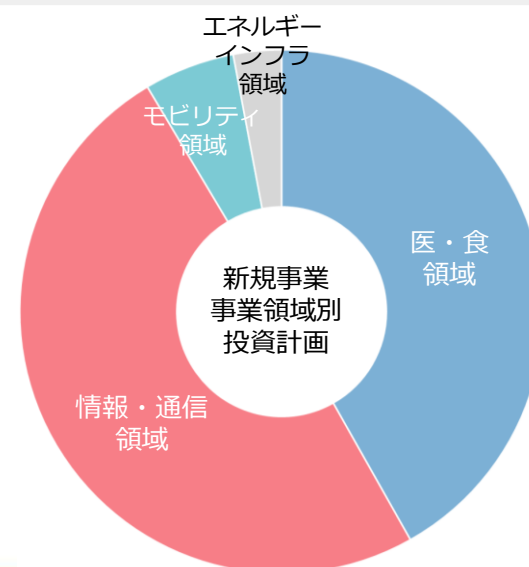
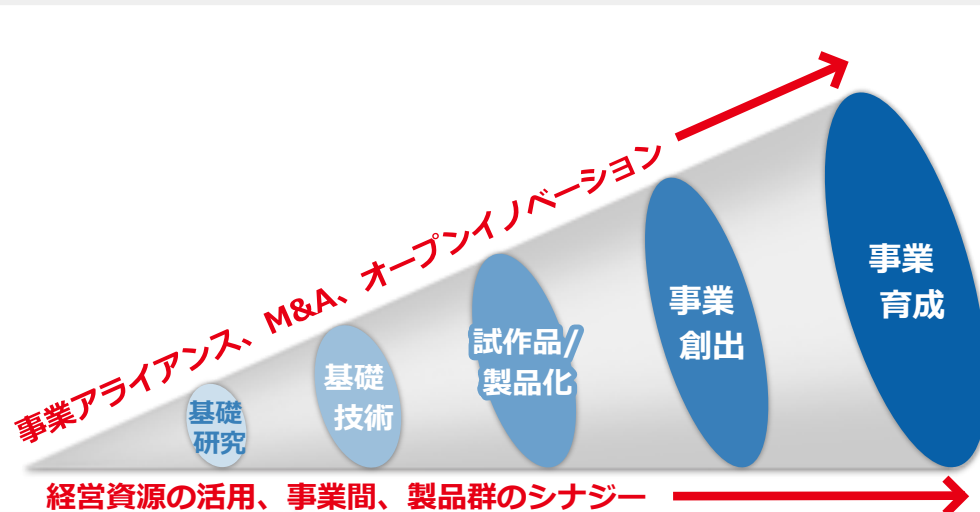
既存製品の競争優位性を維持
効率的な市場展開
異なる事業領域への展開
安定した収益構造の構築

新中期経営計画 MGC Advance2020 概要：基本方針を実現するための5つの施策②

「新規事業の創出と育成」

MGCグループが将来に亘り存続していくため、新技術、新製品の開発に積極的取り組み、新規事業の創出と育成を図ります。とりわけ「医・食」、「情報・通信」、「モビリティ」の領域に積極的な投資を行います。

- 新技術、新製品の開発にあたっては、メガトレンドに対する市場の変化およびそのスピードへの感度を高め、ターゲットを的確に絞り込み、タイミングを逸することのないよう対応します。
- 新しい事業の創出の為に、他社との事業提携、M&A等、従来の経営手法にとらわれない、より積極的な経営資源の活用にも取り組みます。
- ライフサイエンス事業、医療包材、ネオプリム、半導体関連材料(フィルム状アンダーフィル材、半導体下層膜等)、固体電解質、メタノール燃料電池等の新規事業の創出と育成に注力します。

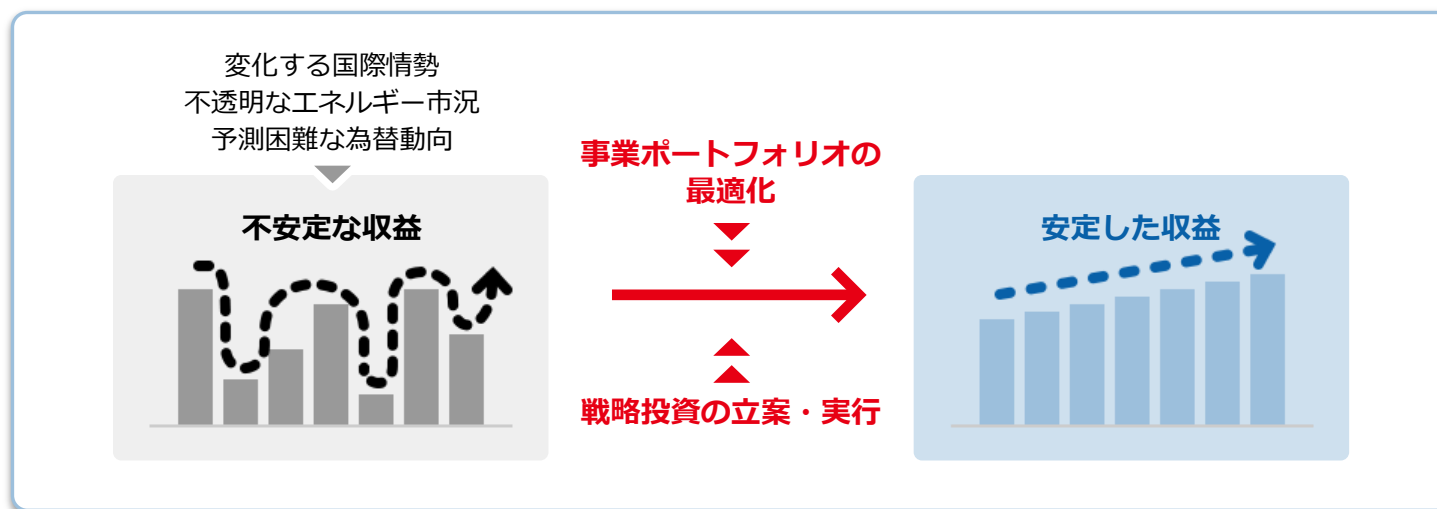


新中期経営計画 MGC Advance2020 概要：基本方針を実現するための5つの施策③

「最適な事業ポートフォリオに向けた投資戦略の実行」

MGCグループの安定した収益構造を構築するため、最適な事業ポートフォリオに向けた投資戦略を立案し、実行します。

- 新しい技術・製品、新しい事業を絶え間なく生み出していくことにより、収益源の多様化を図り、汎用製品、高機能製品、特殊製品、新規製品のそれぞれがMGCグループをバランスよく支えていくよう、投資戦略を立案、実行します。
- 投資戦略の立案にあたってはメガトレンドに対する市場の変化やスピードを勘案し、成長投資による企業価値の向上を図ります。

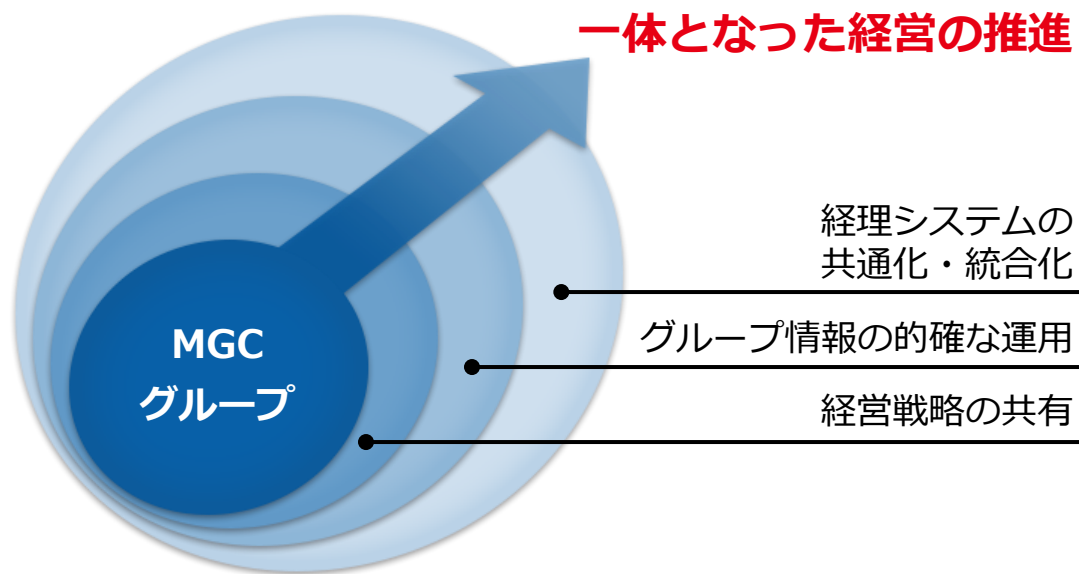


新中期経営計画 MGC Advance2020 概要：基本方針を実現するための5つの施策④

「MGCグループ一体となった経営の推進」

MGCグループの企業価値向上に向け、MGCグループの企業群が一体となって、MGCの経営戦略を共有し、日々の事業を進めていきます。

- MGCグループの情報を適切に把握し、グループ経営の効率化につなげるため、BMU(Business Management Unit)導入による連結での事業管理、経理システムの共通化、統合化、MGCグループ3商社統合等に向け、継続して取り組みます。
- グループが行う個々の投資活動に対する適切な実績評価システムの構築等、グループ経営の視点で投資管理手法の高度化を推進します。



新中期経営計画 MGC Advance2020 概要：基本方針を実現するための5つの施策⑤

「持続的成長を支える〈質〉の向上」

MGCグループの持続的成長を図っていくため、人材、資金、技術、情報、ブランド、知的財産等の経営資源の〈質〉を常に向上させ、それらの経営資源を有効に活用していきます。

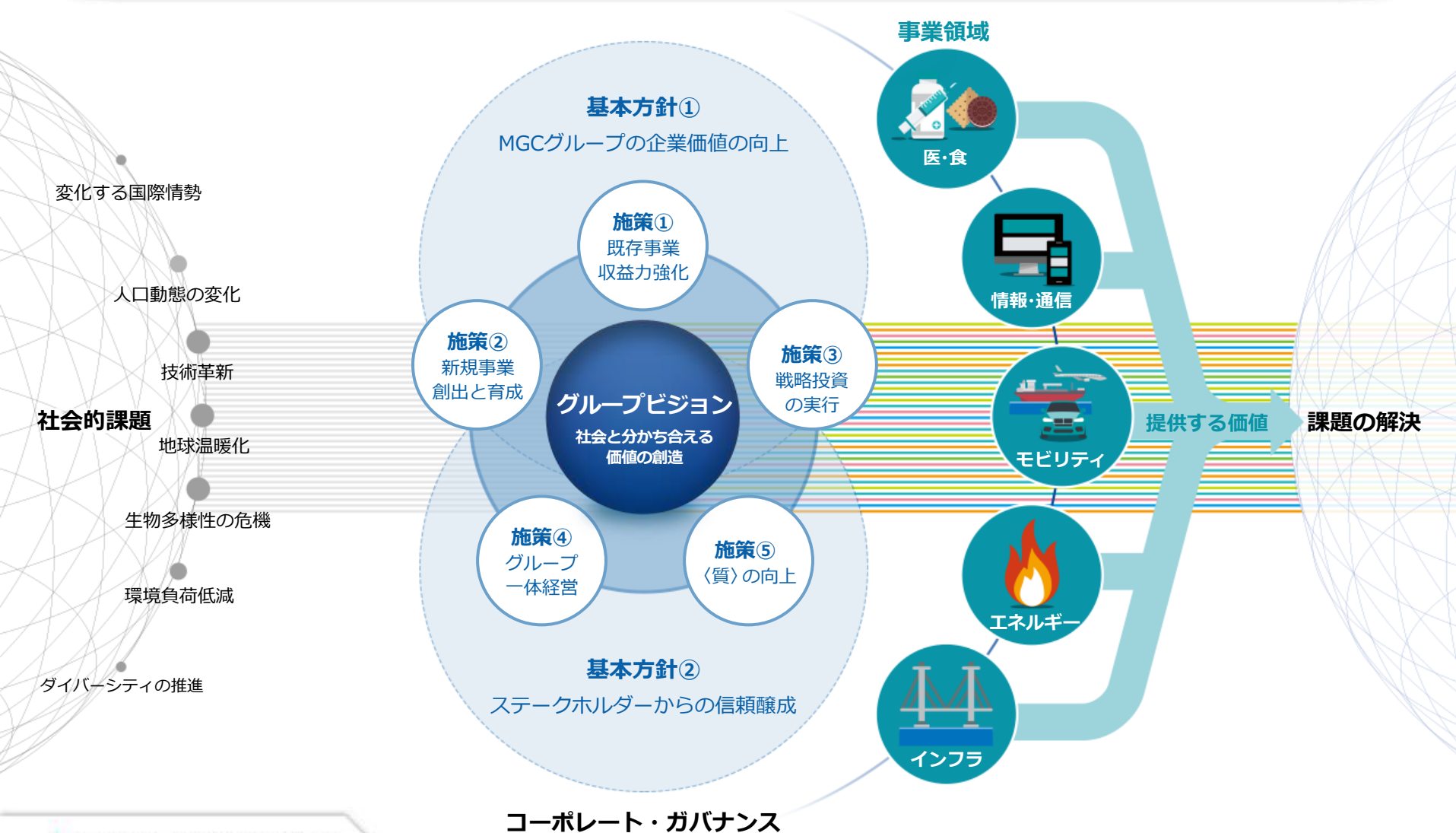
- グループ全体に亘る安全意識・文化の一層の向上とその実践に取り組みます。
- コーポレート・ガバナンス体制の実効性ある運用と強化・充実を図ります。
- コンプライアンス、リスク管理のグループ全体を通じた水準の向上を図ります。
- 良質な人材の育成を図ります。
- イノベーションを生み出す研究開発力の育成を図ります。
- 情報システムの効率化を図ります。

【施策】

安全意識・文化の向上
コーポレート・ガバナンス体制の強化充実
コンプライアンス、リスク管理の向上
良質な人材の育成
研究開発力の育成
情報システムの効率化



新中期経営計画 MGC Advance2020 : MGCグループ もっと大きな夢に！



新中期経営計画 MGC Advance2020 概要：数値目標

スプレッド縮小の影響により
2018年度の**経常利益は減少**。

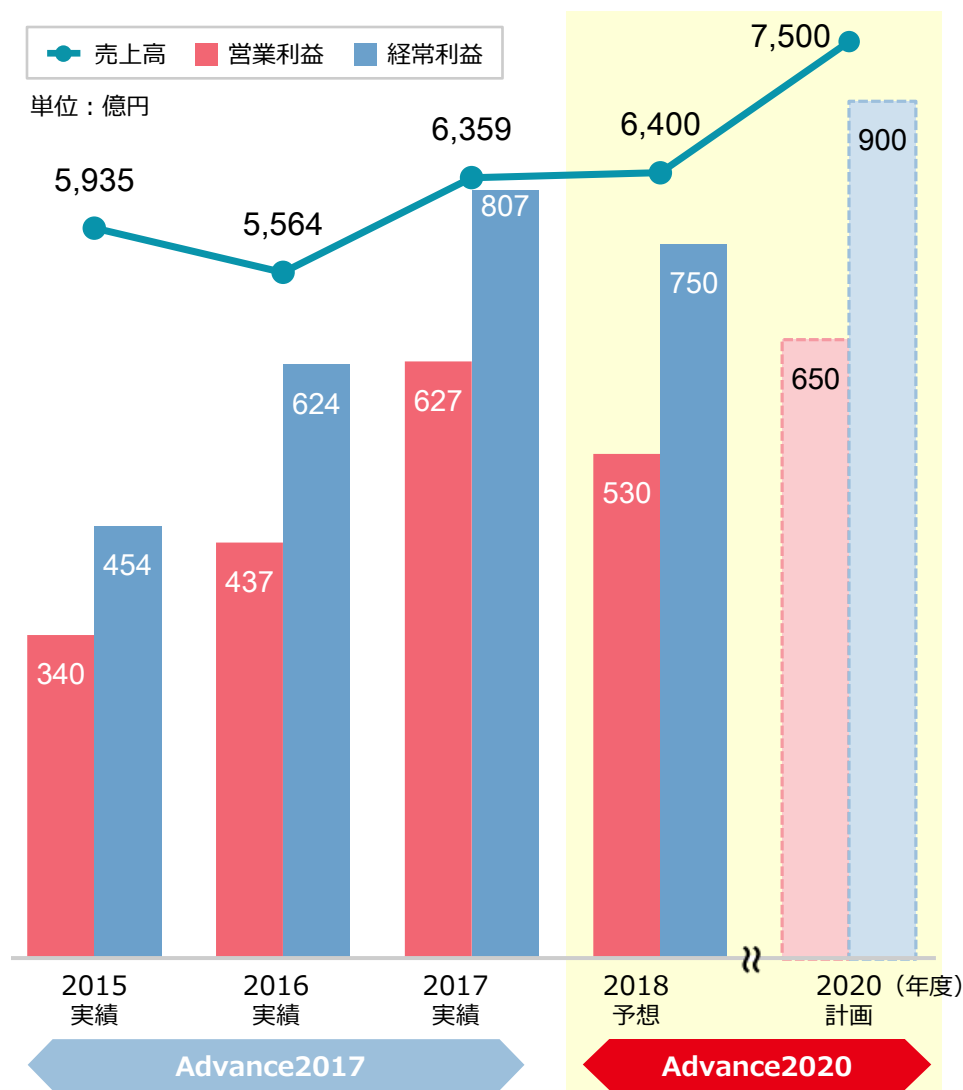
Advance2020最終年度計画は、
売上・収益ともに**成長**。

2020年度 連結業績目標

単位：億円，%

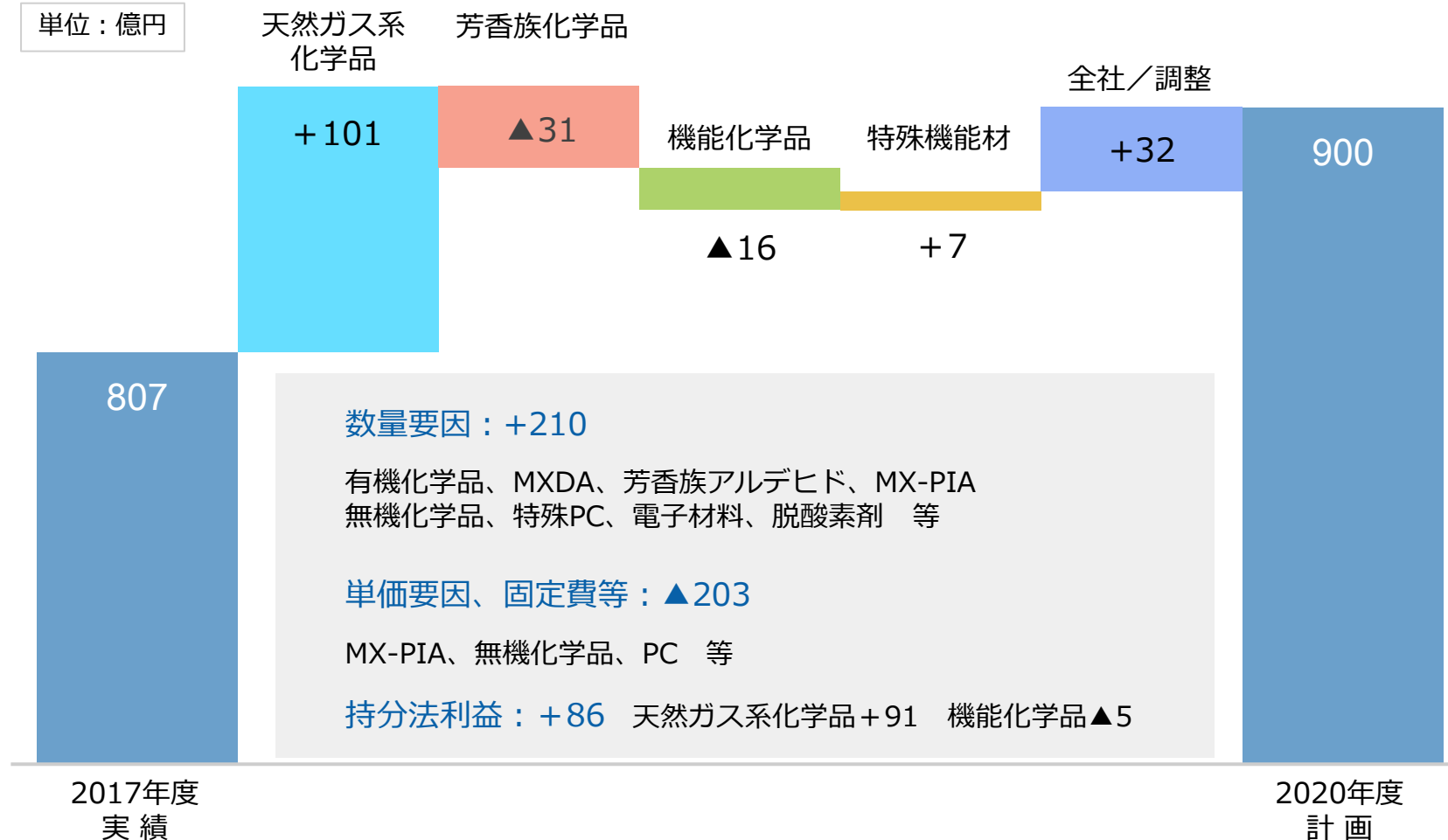
連結指標	2017年度 実績	2018年度 予想	2020年度 計画
売上高	6,359	6,400	7,500
営業利益	627	530	650
経常利益	807	750	900
ROE	13.6%	12.5%	12%以上

前提	2017年度 実績	2018年度	2020年度
為替(円/US\$)	111	110	110
原油 (Dubai) (US\$/bbl)	56	60	60



新中期経営計画 MGC Advance2020 概要：セグメント別経常利益の増減

単位：億円

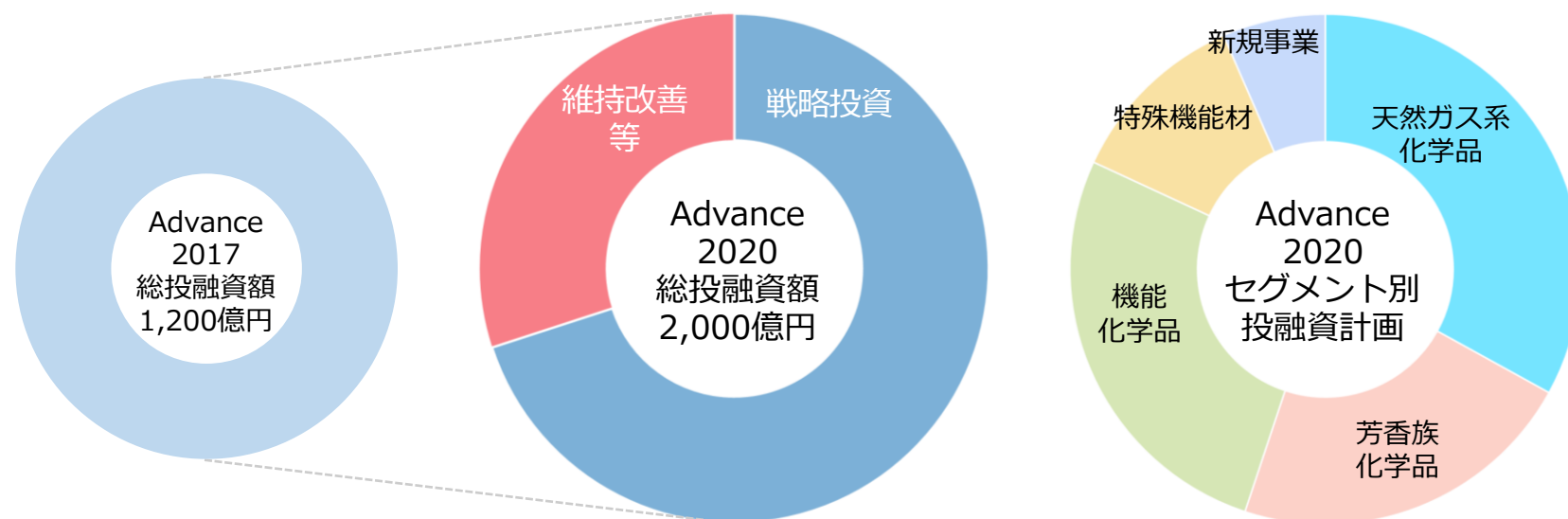


新中期経営計画 MGC Advance2020 概要：投融資計画 研究開発費計画

MGCグループの企業価値向上のため、既存事業の収益力の強化と新規事業の創出と育成に向けて経営資源を有効に配分します。

原燃料価格や為替の変動等、当社を取り巻く外部経済環境が著しく変化した場合に於いても、常に安定した収益が齎されるよう、汎用品から機能品、特殊品に至るバランスの取れた最適な事業構造の構築に向けた投資戦略を実行します。

Advance2020累計研究開発費：660億円を投入



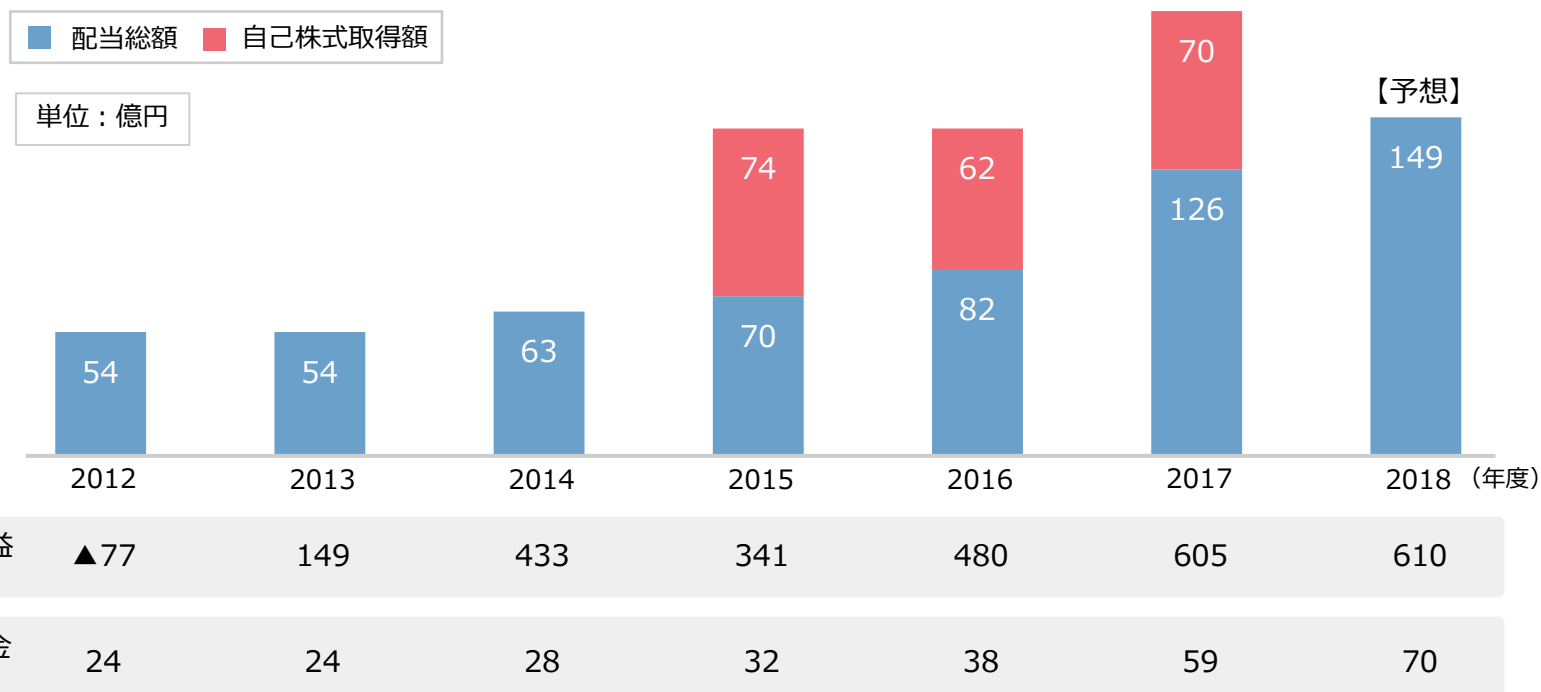
*M&Aは含まず

新中期経営計画 MGC Advance2020 概要：株主還元方針

MGCグループは企業価値の向上を経営上の最重要課題と位置付けています。

配当については、安定配当の継続を基本に業績動向等を考慮して決定します。

内部留保の水準と株主還元の水準を考慮して自己株式の取得を機動的に実施し、資本効率の向上と株主還元の充実を図ることを基本方針としております。



※当社は2016年10月1日に株式併合(2株→1株)を実施しています。

配当金については、株式併合前においても当該併合が行われたと仮定した遡及修正による数値を表示しています。

目次

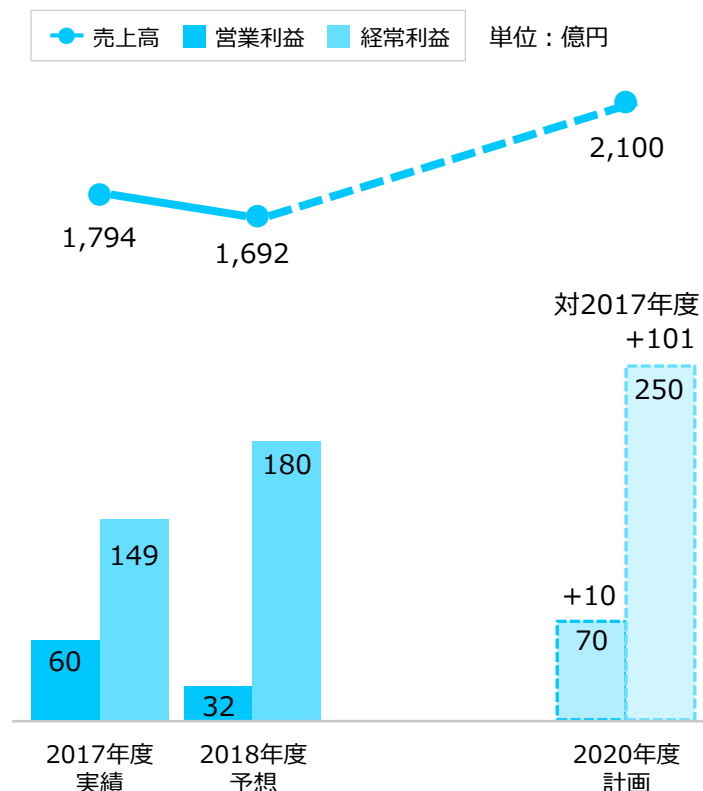
1 | 前中期経営計画 MGC Advance2017 総括

2 | 新中期経営計画 MGC Advance2020 概要

3 | セグメント別事業計画

セグメント別事業計画：天然ガス系化学品

メタノール事業並びに資源開発事業の豊富な経験を活かし、MGCグループの各種技術と誘導品を積極的に組み合わせ、グローバルに事業を展開する。



<メタノール>

- トリニダード・トバゴプロジェクトの計画通りの立上(2019年商業運転開始)
- 既存J/Vの安定・効率的な操業(サウジアラビア、ベネズエラ、ブルネイ)

<エネルギー資源>

- 山葵沢地熱発電所の計画通りの立上(2019年運転開始)
- 安比地熱発電所の建設を計画(2023年運転開始目標)

<有機化学品>

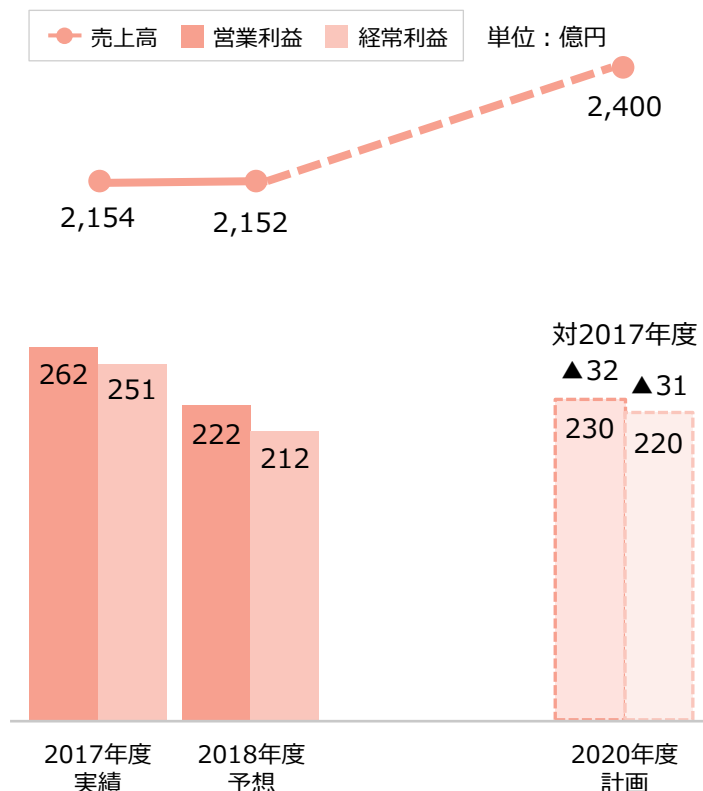
- 安全・安定操業による安定供給
- 独自の触媒、合成技術をベースとした新規事業の創出

<ライフサイエンス>

- 開発体制強化によるバイオプロダクツ新規製品の継続的上市
- 抗体医薬品を中心としたバイオ医薬品事業の推進

セグメント別事業計画：芳香族化学品

既存の汎用製品は基盤事業として安定した運営を行う。特殊製品・新規製品は新たな技術・製品開発と顧客密着型の市場開拓によって、高付加価値事業へ育成する。



<MXDA/MXナイロン>

- 海外拡販戦略の推進
- 水系塗料、低感さ性塗料、CFRP市場の開拓
- MXDA装置の新增設(2022年運転開始目標)

<芳香族アルデヒド>

- HF/BF₃触媒技術による新規誘導体の開発

<MX/PIA>

- 安全・安定操業による安定供給
- 市況や外部環境に左右されない事業基盤の構築

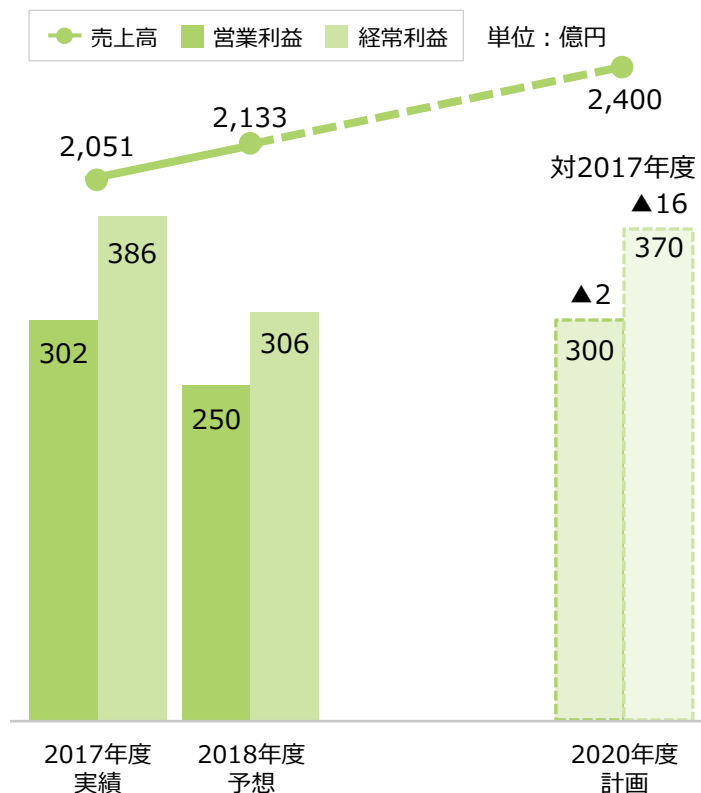
<発泡体> JSP*

- 成長事業(自動車部品、建築住宅断熱材等)の拡大
- 顧客視点に立った差異化戦略で事業領域拡大

*JSPは芳香族化学品セグメントに属するグループ会社

セグメント別事業計画：機能化学品

情報・通信、モビリティ領域におけるMGCグループの存在感を高め、高付加価値製品の拡販に経営資源を重点的に投入する。



<過酸化水素>

- 国内トップメーカーとして更なる事業基盤の強化
- 殺菌、環境分野などの高付加価値市場の開拓

<電子工業用薬品>

- 北米新設2工場の円滑な立上
- 最先端の半導体技術に対応した新規薬液の開発

<PC>

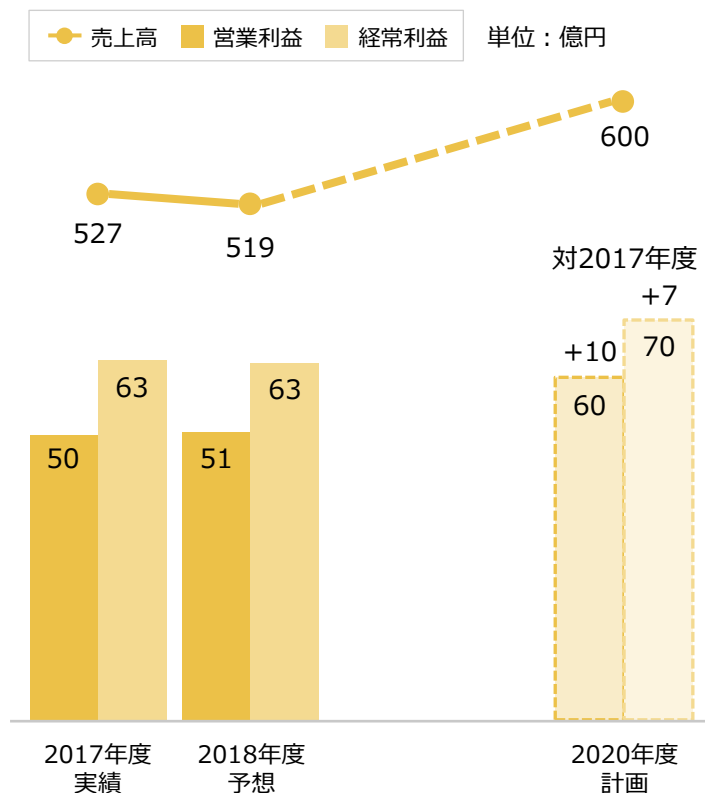
- 高機能グレード、機能性シート・フィルムなどの高付加価値製品の開発・拡販
- 高屈折率・低複屈折特殊PCの拡販
- 顧客要求に対応した高い品質の製品供給

<POM>

- 自動車・OA市場へ新規製品の投入と拡販
- 浄水の水道管など水廻り市場の開拓

セグメント別事業計画：特殊機能材

既存製品の改善・拡充によって市場を拡大するとともに、
新規製品の開発・投入によって新たな事業を創出する。



<電子材料>

- 通信の高速・大容量化やデバイスの軽薄短小化などの電気・電子業界の技術トレンドへの対応、周辺材料の拡充
- 車載用、人工知能・IoT関連デバイス、次世代通信システム（5G）分野の半導体パッケージ材・周辺材料の開発
- 日本の工場は需要増減・品種多様化への対応強化
タイの工場は製造品種の拡大、相互補完による安定供給、生産効率化

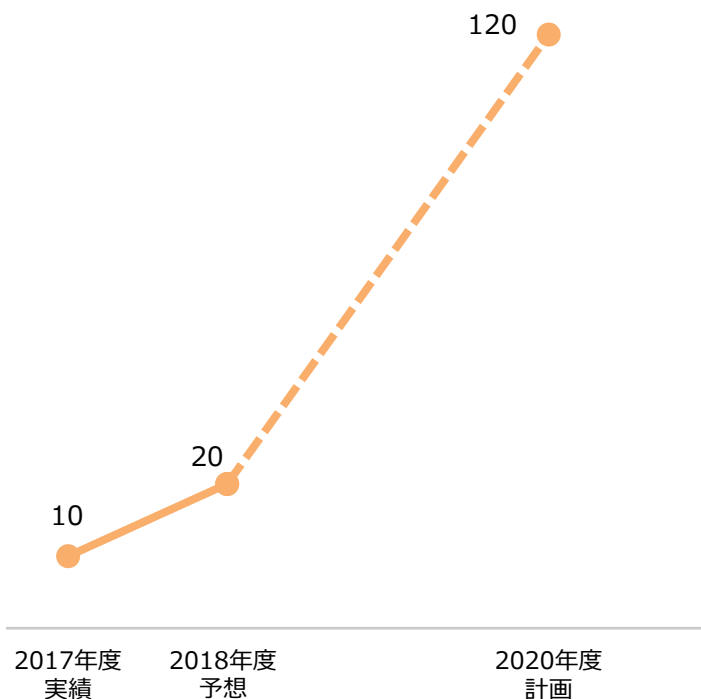
<脱酸素剤>

- 日本市場のシェア拡大と海外市場への拡販
- 酸素吸収樹脂系容器（パウチ、フィルム、ボトル）の拡販
- 医薬品・工業製品市場への拡販
- 日本、タイの二大生産拠点の安全・安定操業と安定供給

セグメント別事業計画：新規事業

MGCの独自技術にM&A等の事業投資手法も加味して、新規事業の事業化を継続・推進し、社会の発展に貢献する。

【ご参考】新規事業・製品売上高：億円



<プラスチック製バイアル・シリンジ>

- OXYCAPT™技術を用いたプラスチック製バイアル・シリンジの事業化を推進

<核酸医薬>

- 核酸医薬の研究開発を行う(株)Veritas In Silicoに出資を行い、研究開発を推進

<工場野菜生産事業>

- 大規模完全人工光型植物工場を建設し、(株)ファームシップと協業で工場野菜生産事業へ参入(2019年生産開始予定)

<アクティブ光ケーブル>

- アクティブ光ケーブルの開発販売を行うOptomind Inc(韓国)に出資を行い、事業化を推進

<錯体水素化物固体電解質>

- 全固体リチウムイオン電池向けに使用可能な固体電解質の開発

お問合せ先

広報IR部

TEL : 03-3283-5041 www.mgc.co.jp

2018年5月11日

三菱ガス化学株式会社

新中期経営計画 参考資料

2018年5月11日

三菱ガス化学株式会社

【参考資料】セグメント別売上高・営業利益・経常利益／実績・予想・計画（単位：億円）

	2012年度 実績	2013年度 実績	2014年度 実績	2015年度 実績	2016年度 実績	2017年度 実績	2018年度 予想	2020年度 計画
売上高	4,679	5,344	5,295	5,935	5,564	6,359	6,400	7,500
天然ガス系化学品	1,618	1,948	1,976	1,756	1,535	1,794	1,692	2,100
芳香族化学品	1,301	1,415	1,233	2,058	1,944	2,154	2,152	2,400
機能化学品	1,325	1,545	1,660	1,702	1,722	2,051	2,133	2,400
特殊機能材	532	554	582	552	502	527	519	600
全社/調整	▲ 98	▲ 119	▲ 156	▲ 135	▲ 139	▲ 169	▲ 97	0
営業利益	114	114	149	340	437	627	530	650
天然ガス系化学品	17	27	27	41	25	60	32	70
芳香族化学品	7	28	30	152	183	262	222	230
機能化学品	69	39	82	130	216	302	250	300
特殊機能材	41	42	38	40	48	50	51	60
全社/調整	▲ 22	▲ 23	▲ 28	▲ 24	▲ 36	▲ 49	▲ 27	▲ 10
経常利益	276	308	420	454	624	807	750	900
天然ガス系化学品	159	184	272	139	143	149	180	250
芳香族化学品	▲ 8	21	10	137	175	251	212	220
機能化学品	67	38	91	155	268	386	306	370
特殊機能材	44	48	40	38	61	63	63	70
全社/調整	14	15	5	▲ 16	▲ 24	▲ 43	▲ 12	▲ 10

【参考資料】各種指標（1）

	2012年度		2013年度		2014年度		2015年度		2016年度	
	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期	上期	下期
為替(JPY/USD)	79	87	99	102	103	117	122	118	105	112
原油価格(Dubai) (US\$/BBL)	106	107	103	105	104	63	56	36	43	51
メタノール (US\$/MT)	385	364	375	449	432	358	301	230	230	327
原料キシレン (US\$/MT)	1,190	1,320	1,230	1,160	1,100	730	740	630	660	680
ビスフェノールA (US\$/MT)*	1,500 ~1,800	1,600 ~2,000	1,550 ~1,800	1,550 ~1,700	1,600 ~2,000	1,200 ~1,900	950 ~1,500	850 ~1,100	1,000 ~1,200	1,000 ~1,400
ポリカーボネート (US\$/MT)*	2,500 ~2,800	2,500 ~2,800	2,400 ~2,600	2,400 ~2,600	2,500 ~2,700	2,300 ~2,700	2,100 ~2,650	2,000 ~2,400	2,200 ~2,500	2,400 ~2,800

	2017年度		2018年度 (予想)	2020年度 (前提)	備考
	上期	下期			
為替(JPY/USD)	111	111	110	110	
原油価格(Dubai) (US\$/BBL)	50	62	60	60	
メタノール (US\$/MT)	296	381	335	355	アジアスポット平均価格
原料キシレン (US\$/MT)	650	725	705	705	スポット価格 (FOB Korea)
ビスフェノールA (US\$/MT)*	1,100 ~1,300	1,200 ~1,700	1,200 ~1,800	1,000 ~1,600	主要平均CIF価格
ポリカーボネート (US\$/MT)*	2,500 ~2,900	2,900 ~3,900	2,700 ~3,900	2,300 ~3,200	

※メタノール

2014年度までは、
上期：1～6月
下期：7～12月

2015年度以降は、
上期：4～9月
下期：10～3月

の価格予想を表記しております。

【参考資料】各種指標（２） 連結ベース

単位：億円

	2012年度	2013年度	2014年度	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度 予想	2019年度 計画	2020年度 計画
設備投資(※)	309	254	222	305	350	309	450	470	500
減価償却費	230	235	237	267	256	270	270	300	320
研究開発費	151	161	168	189	192	189	220	220	220
年度末人員(人)	5,323	5,445	8,254	8,176	8,034	8,009	8,239	8,250	8,350

※固定資産計上ベース

【参考資料】「社会と分かち合える価値の創造」：MGCグループの多様な製品群

進むべき5つの事業領域



医・食



情報・通信



モビリティ



エネルギー



インフラ

MGCグループビジョン「社会と分かち合える価値の創造」

MGCグループは、化学の力にもとづき、グループ一人ひとりが力を合わせて社会から必要とされる価値ある製品・技術を創出し、直面する社会課題を解決し、持続可能な社会の実現に貢献していきます。

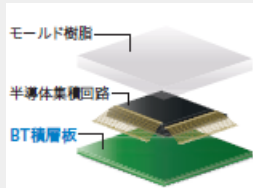
MGCグループの多様な製品群は、進むべき5つの事業領域の分野において、単に利益を追求するのではなく、「社会的な価値」あるいは「環境的な価値」をも創出することにより、安心・安全社会の実現に貢献していきます。



【参考資料】「社会と分かち合える価値の創造」：医・食領域

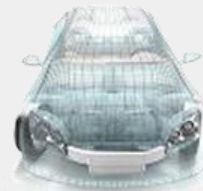
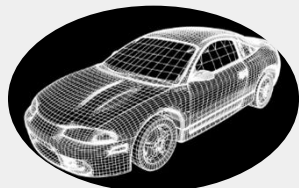
製品名	末端用途	競争力の源泉	安心・安全社会の実現に貢献
PQQ SAME含有酵母	機能性食品素材	微生物連続培養技術 菌株の育成技術	発酵法により安全性の高い 食品素材を提供し、 人々の健康に貢献します。 
抗体医薬	バイオ後続医薬品	動物細胞培養技術 製造プロセス開発力	抗体医薬は、一つの抗体が 一つの患部（抗原）のみに 作用し、副作用が少なく 安全性に優れた医薬品です。 
OXYCAPT™	プラスチック製 バイアル シリンジ	重合技術 多層成形技術	ガラス代替による軽量化、 ガラス破損事故の防止、 無機物の溶出がない安心・ 安全な医療用器具です。 
脱酸素剤 MXナイロン	食品・飲料 鮮度保持剤	脱酸素技術 材料配合技術 包装設計技術 重合技術	酸化による劣化を防止、 流通効率向上によって CO ₂ 削減、食品ロス低減、 品質保持 などに貢献します。 

【参考資料】「社会と分かち合える価値の創造」：情報・通信領域


製品名	末端用途	競争力の源泉	安心・安全社会の実現に貢献
特殊PC	カメラレンズ (高屈折率・低複屈折)	重合技術 樹脂組成開発力	溶剤不要／排水が出ない環境に優しい製法で生産する特殊PCは、レンズの小型化・高画素化に貢献します。 
ネオプリム (透明ポリイミド)	有機EL ディスプレイ	重合技術	曲げることが可能、軽量・薄型・携帯有機ELディスプレイの実現に貢献します。 
電子工業用薬品	液晶ディスプレイ 半導体	高純度化技術 クリーン化技術	モバイル・車載・家電に搭載する電子機器の技術革新に貢献します。 
BT積層板	半導体 パッケージ材料	重合技術 フィラー充填技術 複合材料設計技術 多層成形技術	モバイル・車載・家電の小型化・薄型化・軽量化・高機能化・省電力化に貢献します。 

【参考資料】「社会と分かち合える価値の創造」：モビリティ領域



製品名	末端用途	競争力の源泉	安心・安全社会の実現に貢献
PC/POM	自動車 内装・外装部品	重合技術 樹脂組成開発力 配合技術 樹脂成形技術	軽量化による燃費向上、 加工性改善、意匠性向上 に貢献します。 
発泡体*1	自動車 内装・外装部品	発泡技術	緩衝性が高く衝突安全性 に優れ、軽量素材で、軽 量化・燃費の向上に貢献 します。(リアシート芯材等) 
MXDA/1,3BAC	自動車 内装・外装部品	合成技術	GFRP・CFRPのエポキシ 硬化剤に使用され、軽量 化・燃費の向上に貢献し ます。 
GMA	自動車 トップコート塗料	製造技術	耐酸性雨や耐擦り傷性を 有する塗料として使用さ れ自動車の耐候性向上に 貢献します。 

*1：発泡体はMGCグループ会社であるJSPの製品です



【参考資料】「社会と分かち合える価値の創造」：エネルギー領域

製品名	末端用途	競争力の源泉	安心・安全社会の実現に貢献
メタノール	燃料電池	原料立地生産 合成技術 触媒技術	メタノールと空気を原料として電気を発電し、大気汚染物質を発生しません。 
地熱発電	再生可能な クリーン エネルギー	資源開発技術 探鉱開発技術	クリーンな地熱エネルギーを開発し、電力の安定供給と発電時のCO ₂ 排出量削減に貢献します。 
天然ガス 火力発電	環境負荷の低い エネルギー	高効率な発電設備	環境負荷の低い天然ガスを燃料とした相馬港天然ガス火力発電事業に参画し、電力の安定供給に貢献します。 
アンモニア	石炭火力発電 脱硝用還元剤	高圧ガス 取扱技術	アンモニアは脱硝用の還元剤として使用され、窒素酸化物を除去し、大気汚染防止に貢献します。



【参考資料】「社会と分かち合える価値の創造」：インフラ領域

製品名	末端用途	競争力の源泉	安心・安全社会の実現に貢献
電子工業用薬品 BT積層板	情報インフラ	高純度化技術 クリーン化技術 重合技術 フィラー充填技術	無線通信、自律運転など 高速化・大容量化する情報 インフラ構築に貢献します。 
MXDA	水溶性塗料	合成技術	水溶性エポキシ塗料にも 使用されるため、有機溶 剤を限りなくゼロにし、 環境負荷低減、作業者の 安心・安全に貢献します。 
過酸化水素	環境薬剤	酸化技術	過酸化水素と触媒を用いた フェントン反応により、揮 発性有機化合物(VOC)等で 汚染された土壌を浄化します。 
QOL イノベーション センター白河	QOL向上製品の 開発・製造拠点	新規製品 開発拠点	環境負荷低減を目指し、 電気だけでなくガスも含 めた最適なエネルギーシ ステムを構築しました。 